

第2回

詠む心世界中から集めたい

# 盛岡国際俳句大会

期日 令和二年十一月

入選句集

応募句集

主催 盛岡国際俳句大会実行委員会

共催 盛岡市

後援

盛岡市教育委員会／盛岡市文化振興事業団／盛岡国際交流協会／  
現代俳句協会／公益社団法人俳人協会／国際俳句交流協会／日本伝  
統俳句協会／俳句ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会／岩手日報／  
盛岡タイムス社／NHK盛岡放送局／IBC岩手放送／テレビ岩手／  
めんこいテレビ／岩手朝日テレビ／エフエム岩手／岩手ケーブルテレビジョン



盛岡国際俳句大会とは

日本文化を象徴する芸術である俳句は、今では「HAIKU」と呼ばれ、世界各地で親しまれていることをご存知ですか。

盛岡国際俳句大会は二〇一九年の盛岡市市制施行一三〇周年を記念して始まった日本語と英語による俳句の大会です。

盛岡市は山に囲まれた風情ある街並みの中を、鮭が上る川が流れる、自然豊かで四季の彩りを感じられる街です。また、多くの偉大な先人を輩出した歴史と文化が薫る街でもあります。

そして俳句は、そうした自然や歴史を切り取り、五七五のたった十七文字で表現する最も身近な芸術なのです。

盛岡に住む人が、自分の街を見つめ直し、その魅力を再発見したり、盛岡を訪れた人が、その魅力を知り、好きになってくれたり。

この大会がそんなきっかけになってくれれば幸いです。

盛岡国際俳句大会実行委員会



ごあいさつ

盛岡国際俳句大会実行委員会  
会長 谷藤裕明

盛岡市は、四季の移ろいを身近に感じられるまちであり、また、俳人である山口青邨をはじめ、石川啄木や新渡戸稲造など、文学に造詣の深い先人が残した歴史文化が息づくまちであります。

盛岡国際俳句大会は、盛岡の魅力を再発見し、国内外に発信するため二〇一九年から開催しており、第二回目となる今大会は、コロナ禍の中においても、大変多くの投句をいただきました。

これもひとえに、投句いただいた俳句を愛する方々の想いと、選者の先生方をはじめ大会関係各位の御指導・御協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

この大会を機会に、国内外の皆様には盛岡の魅力を知っていただき、盛岡市民の皆様には、俳句を通して、改めて自分の住んでいるまちの魅力を再発見していただきたく存じます。

結びに、投句いただいた方々、関係各位の皆様の後ますますの御発展を祈念いたしまして、挨拶いたします。

## 第二回盛岡国際俳句大会 投句規定

### ◆ 事前投句募集期間

令和二年五月十五日(金)～八月十五日(土)

### ◆ 事前投句日本語部門

#### 一般の部

選者 夏井いつき (俳人・俳句集団「いつき組」組長)

高野ムツオ (小熊座 主宰)

太田土男 (草笛 代表)

白濱一羊 (樹氷 主宰)

賞 大会賞一作品、盛岡市長賞一作品

大賞二作品、特選八作品、入選八十作品

### ◆ ジュニアの部

選者 白濱一羊 (樹氷 主宰)

工藤玲音 (樹氷 同人)

賞 大会賞一作品、文京区長賞一作品

入選十作品

### ◆ 事前投句英語部門

選者 マイケル・ディラン・ウェルチ (俳人)

木内徹 (俳人・元日本大学教授)

賞 大会賞一作品、特選五作品、入選十二作品

※表記は新字体で統一しています。

事前投句日本語部門 一般の部

盛岡国際俳句大会賞

夏井いつき 選

なんきんのごろりと座敷童子かな  
富山県 富山の露玉

盛岡市長賞

白濱一羊 選

早天や賢治の井戸にもらひ水  
盛岡市 下河原正泉

事前投句日本語部門 一般の部

大賞

高野ムツオ 選

ナニヤドヤラ津波流れの汝もかだれ 久慈市 柳 幸子

大賞

太田土男 選

遠雷や幸呼来の三万が来る 盛岡市 二 藍

事前投句日本語部門 一般の部

特選

夏井いつき 選

百日の家居ざくろの実は真っ赤 千葉県 千葉信子

特選

夏井いつき 選

チャグチャグの上手な馬に蚊遣焚く 奥州市 青沼利秋

特選

高野ムツオ 選

遠雷や幸呼来の三万が来る 盛岡市二 藍

特選

高野ムツオ 選

億年の祭祀とおもふ蟬時雨 北海道 中村純夫

特選

太田土男 選

天の川氾濫している早池峯に 遠野市 夏谷胡桃

特選

太田土男 選

青葦の一本蛇籠貫けり 東京都 若林杜紀子

特選

白濱一羊 選

日のぬくみあるクローバーの首飾 兵庫県 杉岡壺風

特選

白濱一羊 選

風受けて音又となりぬ冬木立 花巻市 大平春子

事前投句日本語部門 一般の部

入選

夏井いつき 選

うすれたる鬼の手形や苔の花

八幡平市 佐々木一夫

村一番歳若さうなのが案山子

兵庫県 杉岡壺風

十年の古着の涼し夕まぐれ

新潟県 伊藤一二三

牛も豚も飼わぬと決めて注連飾る

盛岡市 澤藤はなの

逆上がりほどに曲がりてきゅうりかな

盛岡市 干し柿

三月や一本松は濡れてゐる

千葉県 岡田春人

踏切やはんかちに絵の具の匂い

奥州市 里舘園子

帰省すれば先史のごとく匂ふ雨

盛岡市 上野公義

お茶餅のたれ滴りて村芝居

盛岡市 竹鼻裕子

鎌祝ひ火傷しさうなはつと汁

栃木県 野乃かさね

不採通知何もなかったように薪ストーブ

八幡平市 茂 作

救援の水を大事に髪洗う

東京都 菅原和子

夏至の日のひとつ点らぬ防犯灯

八幡平市 円子涼子

ほかに店なき頃からの種物屋

盛岡市 細田桂子

星飛んで種山ヶ原海だべが

盛岡市 鈴木睦子

炎暑かな南部は豆腐美味き国

盛岡市 石澤利男

フルートの唇花は谷へ谷へ

宮城県 寺菴しずか

白鳥来る町は小さなオルゴール

遠野市 夏谷胡桃

田草取る水面の巖手山の胸

青森県 奥田卓司

葱一本刻み切るまで誰でもない

奥州市 高橋 瞳

事前投句 日本語部門 一般の部

入選

高野ムツオ 選

野分晴砂に埋れし海女の径	神奈川県 塚本治彦	盆波や戻るあてなき仮住居	盛岡市 中野風子
紫陽花のごと集まれり子等の傘	盛岡市 谷川紅	みちのくや缶ドロップのように春	広島県 平本魚水
全身を尾の力とし蝌蚪およぐ	福島県 有馬洋子	夕焼けのホームのベンチ今もなお	矢巾町 中野充裕
馬の瞳の灰と濡れゐて終戦日	宮城県 山内雅子	結葉のこれより先はけもの道	盛岡市 村山あやめ
綿虫や日の残りたる南部富士	盛岡市 渡辺紀子	ポケットをはみ出してゐる蛇の衣	盛岡市 名久井清流
太陽の火を盗み出しトマト食う	奥州市 小笠原祐子	鎌祝ひ火傷しさうなはつと汁	栃木県 野乃かさね
啄木の新婚の家小鳥来る	久慈市 和城弘志	冷し馬たてがみに溶けゆく夕陽	奥州市 鎌倉道彦
白木蓮未来の風が吹いてくる	盛岡市 恵子	毒茸の玉杯めきて雨滴満つ	平泉町 岩渕洋子
石据えしのみの水神額の花	花巻市 上野節子	踊子草小踊りしつつ群をなし	盛岡市 松尾清己
日のぬくみあるクローバーの首飾	兵庫県 杉岡壺風	マスクマスクマスクマスク炎ゆ	滝沢市 坂本守



事前投句日本語部門 一般の部  
入選

太田土男 選

「ドラゴンアイ」八幡平に雪踏みて	静岡県	佐藤美雪	叫びたるわけなど言へぬ油照り	久慈市	柳幸ヨミ
開運橋より岩手山帰省かな	盛岡市	川道蓉子	ほかに店なき頃からの種物屋	盛岡市	細田桂子
帰省して一番先に草いきれ	宮城県	寺菴しずか	屈まねば見えぬものあり草を引く	盛岡市	相馬定子
やはらかき南部なまりや草の市	青森県	岩村多加雄	朝市や盛岡弁も売っている	紫波町	熊谷岳朗
星祭り鼻のとがりし夫の顔	千葉県	岡崎翠	放浪の啄木年譜小鳥来る	奥州市	小野寺昭次
骨拾ふための帰郷や青山河	盛岡市	阿部野の女	徘徊の母の看取りの明易し	北上市	小原十三丸
クレーンの向きまたかはり大夕焼	宮古市	佐々木俊子	姫神のすずらん嗅ぎて出征す	矢巾町	中野充裕
岩手山よく見ゆる日に卒業す	大阪府	岩田真弓	お兄ちゃんが帰るまで待つさくらんぼ	一関市	伊藤優子
夏木立啄木像に影おとす	盛岡市	長野えり子	夕立をのぼる硝子のエレベーター	岩手町	小地沢和志
鎌祝ひ火傷しさうなはつと汁	栃木県	野乃かさね	オール一本打ち捨てられて実玫瑰	花巻市	土川喜代子

事前投句 日本語部門 一般の部

入選

白濱一羊 選

どの橋も城へ近道猫やなぎ	盛岡市 金野秀次	虹立てば虹の匂ひの石畳	愛媛県 奈良香里
炎帝の的にされたる立話	北上市 下田榮一	ポケットをはみ出してゐる蛇の衣	盛岡市 名久井清流
夏の灯の揺れて人声ある暮し	神奈川県 渡辺一充	遠花火ビルの形に欠けてをり	盛岡市 大信田宏子
逆上がりほどに曲がりてきゅうりかな	盛岡市 干し柿	青芝や鳩が出ますと写真技師	栃木県 野乃かさね
山月記散文的な青ぶどう	矢巾町 村松涼雅	救援の水を大事に髪洗う	東京都 菅原和子
端居して椰の葉擦れを聞いてをり	静岡県 長田弘子	盗人のごとき足跡春の泥	花巻市 大平春子
夏つばめ帰れぬ息子かと思ふ	盛岡市 工藤幸子	日傘閉じ「でんでんおし」といふバスに	花巻市 高橋才子
青胡桃いつもリユックに肥後守	東京都 石崎宏子	美しき詩をよむように桃をおく	盛岡市 すずめ豆
満天の星に託して凍み豆腐	盛岡市 澤藤はなの	城跡の像なき台座終戦日	矢巾町 岡崎郁子
揚花火きららと散ってドロップス	盛岡市 吉田由紀子	真空管アンプのノイズ星流る	盛岡市 兼平玲子

事前投句日本語部門 一般の部投句作品

玉虫の飛ぶとき空の輝きぬ	神奈川	塚本	彦彦	不来方のしだれ桂の黄葉して	奈良	堀ノ内	和夫	
隣田へ追ひ払ひけり稲雀	神奈川	塚本	彦彦	柏手に羽音のありて木の実落つ	奈良	堀ノ内	和夫	
春眠のこのまま逝つてしまひたし	神奈川	塚本	彦彦	明白な力関係目白二羽	奈良	堀ノ内	和夫	
噴煙に紛るる阿蘇の野火煙	神奈川	塚本	彦彦	夏銀河オンザロックにして吞まむ	一	関市	江原	遅筆
片陰を伝ひ歩きの行商女	神奈川	塚本	彦彦	悪路王伝説読むとやませ来る	一	関市	江原	遅筆
咲いて咲いてモザイクアートのごとく春	紫波	及川	亜海	飛び込みやここが宇宙のど真ん中	一	関市	江原	遅筆
セロハンの炎揺れるや暮の春	紫波	及川	亜海	七色に傘をしめるは蛞蝓あと	一	関市	江原	遅筆
五月雨や世界の始まりのお話	紫波	及川	亜海	最果ての線路にそそぐ萩の声	矢	巾町	藤井	彩矢
いつの日か思い出となる苦闘の日	盛岡	松井	康佑	朱の鳥居鴉鳴きたり暮れ六つ	矢	巾町	藤井	彩矢
忽ちに私を襲う虫時雨	盛岡	松井	康佑	秋の田へ風を自在の南部富士	盛	岡市	金野	秀次
昼時に鳴り出す我の昼の虫	盛岡	松井	康佑	巫女二人神事に侍り今年酒	盛	岡市	金野	秀次
早池峰山の伏流水の田水沸く	一	関市	小山	月光の擬宝珠広欄神話めく	盛	岡市	金野	秀次
葭簾チャルメラ聞こふ鉦屋町	一	関市	小山	この秋は祈る月見となりにけり	盛	岡市	金野	秀次
マドンナの鮎の焼き串抜ひてやり	一	関市	小山	判じ絵めく南部暦や小正月	盛	岡市	金野	秀次
ジョギングの横向く先に残る雁	盛岡	小岩	幹也	鷺の雪形ご城下の農動く	盛	岡市	金野	秀次
涸れドブやしばし狸の隠れ宿	盛岡	小岩	幹也	はらからよ帰りなんいぎ柿の秋	盛	岡市	金野	秀次
蟻地獄待ち続けたり三つの夏	盛岡	小岩	幹也	放流の記憶あらたに鮭のぼる	盛	岡市	金野	秀次
翡翠や上田堤に蘆の風	盛岡	小岩	幹也	石割って乙女桜の咲きいづる	盛	岡市	金野	秀次
カキツバタ浅葱の雨が水清め	盛岡	小岩	幹也	満面に石割桜を見る老女	盛	岡市	金野	秀次
児の遊ぶ十六羅漢霰打つ	盛岡	小岩	幹也	舟っこ流し土手に待機の消防車	盛	岡市	金野	秀次
古民家カフェ南部鉄器の新茶沸く	久慈	えとうま	448	さんさ踊り園児も小さき太鼓打つ	盛	岡市	金野	秀次
角材を運ぶ我らの汗しとど	久慈	えとうま	448	どどんごどんごどんこかつかとさんさくる	盛	岡市	金野	秀次
山粧う猿らのボス争い激し	久慈	えとうま	448	何となく大慈清水に寄って帰る	盛	岡市	金野	秀次
道巾の半分私道曼珠沙華	奥州	阿部	靖	ポケットに啄木歌集海鞘で酒	大	阪府	大島	幸男
狸轢死魂は野へさらし置く	奥州	阿部	靖	緑蔭や校歌は軍艦マーチとふ	大	阪府	大島	幸男
白菜が軒へ積まる、野面積	奥州	阿部	靖	蒲公英の絮を夜汽車の通りゆく	大	阪府	大島	幸男
紅閉ちてそこの息衝く冬の薔薇	奥州	阿部	靖	若布舟戻る港の津波痕	大	阪府	大島	幸男
田水張る領地拡大するがごと	奥州	阿部	靖	若駒の遅れては跳ね蝶に跳ね	大	阪府	大島	幸男
すいとんへ豌豆二匹放しけり	奥州	阿部	靖	草の穂や銀河鉄道始発駅	大	阪府	大島	幸男



小舟にも葦雀にも微風かな	みちのくの雨後の空より大地鳴	汲んでゆく大慈清水や秋彼岸	マロニエと知るみちのくの柝の花	目印の番屋に出ればさんさ踊	朝露を浴びてあじさいエメラルド	コロナ禍に淋しさまねく桜道	台風を恨む心に涙落つ	城跡の碑温し五つ六つ	法師蟬十六羅漢の腕の中	照り紅葉青邨の句碑焰たつ	牧の霧門近く牛の群	垂り雪団地の松の耐えかねる	罹患零巖手の里のコロナ風邪	コロナ禍も背押す日車嫁二人	新聞紙束ねはずおや手毬花	送り梅雨堪忍袋流す吾	片富士の使者は山姥やませ来る	どくだみの花や少女の軽い嘘	判決を聞かず石割桜散る	徽寄せずむかさり絵馬の高島田	望郷の歌吊り南部風鈴は	赤き林檎いつもまだらに剥きくれし	蕨背負ひ外山節の程のよさ	風鈴の南部と江戸を分かつ風	野の花にトンボ止まりて白露かな	さんさ太鼓さばいたバチが宙をつく	夏至ときく一際は関わらず日落つ夏至	姫神の水澄む合唱コンクール	津波から十年玫瑰詩碑の傷	
福井県	福井県	東京都	東京都	東京都	花巻市	花巻市	花巻市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	宮城県	宮城県	宮城県	大阪府	大阪府	大阪府	八幡平市	八幡平市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	秋田県	秋田県	
小林陸人	小林陸人	藤村清彦	藤村清彦	藤村清彦	鎌田豊子	鎌田豊子	鎌田豊子	梅津登志秋	梅津登志秋	梅津登志秋	梅津登志秋	梅津登志秋	梅津登志秋	梅津登志秋	鈴木偵子	鈴木偵子	鈴木偵子	渡辺徹	渡辺徹	渡辺徹	今井文雄	今井文雄	今井文雄	佐々木一夫	佐々木一夫	邦子	邦子	邦子	鈴木木仁	鈴木木仁
赤とんぼさんさ踊りの輪に入りぬ	万緑の瘤となりたる鬼手形	鉄瓶に百年の肌散松葉	本丸跡の柏伐りたる暑さかな	秋まつりでんと三ツ石烏帽子岩	蝉の殻入れて帽子を持ち歩く	猫抱いて寝息数える雨水の夜	窓の外白波のごと蕎麦の花	幸呼来と轟く太鼓蝉負かす	静寂を飲み込む夜景十三夜	強き風ジルバ踊らん落葉かな	下り坂落葉転がるモーツァルト	薫風の水田映る南部富士	夕焼けに輝き垂れて稲穂波	夕暮れて稲穂手をふる家路かな	マンホールの蓋も踊らぬ夏祭	婆ちゃんの指に一族夏祭	風鈴の音のころがり南部鉄	祖母と見た遠き思い出遠花火	露天風呂紅葉湯の中国訛り	中津川ぶれない磁針鮭還る	地底湖の息をのむほど碧き水	妻と子に勝を譲りしわんこ蕎麦	滴鳴る地底湖の水真の碧	鮎屋町青龍水の井戸浚	山住みの浜に染まる手夏わらび	十葉の花のにぎはひ岩鷲碑	ここかしこ水欲しの声早梅雨	植木職の小昼に添える氷菓子	小雨降る夕べの杜や夏鶯	
秋田県	北上市	北上市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	雫石町	雫石町	雫石町	雫石町	雫石町	雫石町	雫石町	雫石町	神奈川県	神奈川県	神奈川県	奥州市	奥州市	奥州市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	宮城県	宮城県	宮城県	
鈴木木仁	下田榮一	下田榮一	菅野啓子	菅野啓子	菅野啓子	菅野啓子	如月真白	如月真白	如月真白	如月真白	如月真白	如月真白	如月真白	如月真白	杉山太郎	杉山太郎	杉山太郎	小野寺洋一	小野寺洋一	小野寺洋一	小野寺洋一	小野寺洋一	小野寺洋一	小野寺洋一	小野寺洋一	和田タケ	和田タケ	和田タケ	早坂きよ子	早坂きよ子

角の先朝焼の山ガツポーズす	中の橋ほっちゃれの鮭に送るよエール	南部鉄のベンチ夏服の自転車から風	不来方の石垣の嶺月冴ゆる	夏さんさ岩に手重ね合う日かな	鮎釣りの竿を見下ろす擬宝珠かな	孟蘭盆の付箋の埃父の本	岩を割く力宿すは桜かな	天守無き石垣軽し雨の月	龍天に岩驚のけわい伺いて	蹄鳴る手綱も軽しチャングチャガ	冬の暮れ瓦斯の灯点くや赤煉瓦	アンパンマン遺影を抱いてまつ螢	七夕の駅のメロデーこぼしりに	冷麵やいくさ逃れし祖母の味	ふつふつとお国言葉やソーダ水	オルガンの「星めぐり」聴く夏の宵	チャグの馬田植の後の訛り民謡	アンパンマン遺影を抱いてまつ螢	七夕の駅のメロデーこぼしりに	冬の暮れ瓦斯の灯点くや赤煉瓦	蹄鳴る手綱も軽しチャングチャガ	龍天に岩驚のけわい伺いて	天守無き石垣軽し雨の月	岩を割く力宿すは桜かな	孟蘭盆の付箋の埃父の本	鮎釣りの竿を見下ろす擬宝珠かな	夏さんさ岩に手重ね合う日かな	不来方の石垣の嶺月冴ゆる	南部鉄のベンチ夏服の自転車から風	中の橋ほっちゃれの鮭に送るよエール	角の先朝焼の山ガツポーズす		
盛岡市	盛岡市	盛岡市	矢巾町	矢巾町	矢巾町	矢巾町	矢巾町	矢巾町	矢巾町	矢巾町	矢巾町	矢巾町	釜石市	釜石市	釜石市	北海道	北海道	北海道	東京都	東京都	東京都	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市
藤村喜久子	藤村喜久子	藤村喜久子	中野充裕	中野充裕	中野充裕	中野充裕	中野充裕	中野充裕	中野充裕	中野充裕	中野充裕	中野充裕	小澤とよ子	小澤とよ子	小澤とよ子	沼田泥舟	沼田泥舟	沼田泥舟	藤井孝弘	藤井孝弘	藤井孝弘	稲垣貞男	稲垣貞男	稲垣貞男	畑育子	畑育子	畑育子	武蔵泰宏	武蔵泰宏	武蔵泰宏			
寒卵磁器に打付く音澄めり	溜めし陽を使ひ切つたる葡萄棚	トンネルを出でし棺に黄葉降る	緑さす大樹の語る愛宕亭	やはらかき空を広げて緑摘む	晴れながら雨の匂ひの茂りかな	もみづれり千の風湧く湖沼群	貝割れの命のかけら摘みにけり	チャグチャグの鈴の音囃す青田風	楽器ケースかつぐ自転車青田波	待ち続ける石段の影原爆忌	粗雨や人魚座りをとく妊婦	いつまでの老老介護去年今年	足湯さへそこそこ釣瓶落しかな	祖父の句の風生んでをり鉄風鈴	自転車の補助輪取れし春の風	廃炉まであと何年か日短	新走り南部杜氏の冠したる	童らの棒のからかふ大毛虫	チャグチャグと馬チャグチャグと祭かな	傘を干し戸口彩る梅雨の晴れ	石割つて葉桜威風堂堂と	餅搗きの音聞こえくる暮れの町	梅雨頃の滴り青い毬の花	ダンシヤリの畳み直すやさんさの紹	写経せし眼に入るは白桔梗	旧友の墓菊より雫生きるよと	南部富士近くに見えて梅ひらく	山国の少しおくれて花菖蒲	雪代山女ゆっくり焙り昼の酒				
盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市		
岩田朝夫	岩田朝夫	岩田朝夫	小川幸子	小川幸子	小川幸子	菅原けんいち	菅原けんいち	菅原けんいち	菅原けんいち	織田宗卯	織田宗卯	織田宗卯	川口茂則	川口茂則	川口茂則	川口茂則	川口茂則	川口茂則	西川無行	西川無行	西川無行	上田観月	上田観月	上田観月	小川和子	小川和子	小川和子	寺田京子	寺田京子	寺田京子			

裏町に精霊流しの早さかな	盛岡市	岩田朝夫	長旅の鮭を労る中津川	盛岡市	佐々木恒夫
寒鴉には一途な帰路のあり羨し	盛岡市	岩田朝夫	幾万人集ひ城下のさんさ舞ふ	盛岡市	佐々木恒夫
風呂桶を伏せし高き音峡の秋	盛岡市	岩田朝夫	寂聴の講話に和む寺涼し	宮城県	春成節子
蝸牛ののんびり振りや真似をせし	滝沢市	田辺厚生	花石榴妻病お家を明るうす	宮城県	春成節子
子の反骨握りこぶしに見たる夏	滝沢市	田辺厚生	スクリーンに見れば暑さ忘れたる	宮城県	春成節子
鼻息も腹も大らかチャグチャグ馬コ	宮古市	豊島喜美子	城跡の夕日さえぎる銀杏の黄	滝沢市	目時雄二
冷麵ののどごし青き嶺近く	宮古市	豊島喜美子	初詣疑心暗鬼の開運橋	滝沢市	目時雄二
内丸の堀に翡翠一直線	宮古市	豊島喜美子	厄落し菜園で待つ同級会	滝沢市	目時雄二
滴りを集め北上川海へ	岡山県	森哲	墮ちながら走りだしたる朴一花	千葉県	千葉信子
うみの世のむみの不来方桜かな	岡山県	森哲	遺言ののびのびになる水中花	千葉県	千葉信子
雪解けや五分で足りし啄木家	岡山県	森哲	雀いろどき蚊柱のふくらめり	千葉県	千葉信子
数あれどここ中津川鮭の波	岡山市	最上哲	曼殊沙華口偏の嘘十四画	千葉県	千葉信子
道をしへよ市でしゃべる盛岡弁	岡山市	最上哲	山彦の思ひだけなかなかかな	千葉県	千葉信子
蝦夷の奥滾ち流れに鮭のぼる	奥州市	最上茂	角干戈ぞ知らぬ牝鹿原に伏す	奥州市	小野野勲
片蔭のしっとり艶めく金色堂	奥州市	最上茂	山霧の柵上のと薄青毛	奥州市	小野野勲
夏空や機動戦隊めくさんさ	神奈川県	渡辺一充	黄金波揺れて小昼に穂の香り	奥州市	小野野勲
風鈴や南部の音色来て甘し	神奈川県	渡辺一充	中津川擬宝珠凝視四年鮭	奥州市	小野野勲
ちやんづけで呼び合ふ二人山桑摘む	西和賀町	照井定子	見晴るかす残雪巖鷲繫の湯	奥州市	小野野勲
城址へ妻連れ立ちて花菖蒲	西和賀町	照井定子	ぬくもりの盛岡言葉あのはん	奥州市	小野野勲
崩るると声を殺して南部領	西和賀町	照井定子	夏蕨村中あげて嫁むかへ	盛岡市	小林初夏
花火咲き擬宝珠光る上の橋	盛岡市	藤井弘幸	盛岡の町の真ん中河鹿なく	盛岡市	小林初夏
「ただいま」と開運橋を渡る盆	盛岡市	藤井弘幸	盛岡の町の端っこ螢とぶ	盛岡市	小林初夏
川下り北上川でハヤと舞い	盛岡市	藤井弘幸	岩木山に抱かれし街秋隣	埼玉県	中川英子
山と夢開運橋の初写真	盛岡市	愛盛賛歌	水打つて有平棒を回しけり	埼玉県	中川英子
さんさ祭昼に敷かれたシート待つ	盛岡市	愛盛賛歌	睡蓮のそろそろ眠くなるころか	埼玉県	中川英子
スポーツの日ホストタウンに思い馳せ	盛岡市	愛盛賛歌	雪の駅渋民小まで二キロなり	盛岡市	吉田空
星飛びて無に溶けゆく山の道	盛岡市	小景	早苗田の真中をとほる鉄路かな	盛岡市	吉田空
夫婦巢に雲の音響く土用昼	盛岡市	小景	啄木の愛でし二山や緑さす	盛岡市	吉田空
髪乱れ姫神風車頼もしく	盛岡市	小景	青田中カメラの列の跨線橋	盛岡市	吉田空
南部富士映す代田の水鏡	盛岡市	佐々木恒夫	そよと吹きほのと匂いし忍冬	盛岡市	吉田空

早苗田の月夜の水面妖しかり	盛岡市	吉田	空	梅雨寒や箸でおにぎり食らう午後	神奈川県	高松富士子
炎昼や賢治の詩に奮ひ立つ	神奈川県	宮崎	清美	霧走りて遠近法の杜となる	神奈川県	高松富士子
雷走る奥歯に埋める正露丸	神奈川県	宮崎	清美	梅の実の色づく時や二羽の鳥	滝沢市	唐木郁夫
片恋のあと一押しよ心太	神奈川県	宮崎	清美	磨硝子ぼっかり浮かんだ薔薇ふたつ	滝沢市	唐木郁夫
梅雨鯨不穩に揺れし目覚めかな	神奈川県	宮崎	清美	鶴鴒や軒の下より叫び声	滝沢市	唐木郁夫
白地着て考の基盤に向かひけり	神奈川県	宮崎	清美	アイスカフェー啄木賢治記念館	盛岡市	鈴木静子
遠雷や踏ん切りつける墓じまひ	神奈川県	宮崎	清美	雨の嵩川と水位の青田かな	盛岡市	鈴木静子
勿忘草喧嘩のあとに飾りけり	一関市	小岩	秀利	学舎の賢治白菜店頭	盛岡市	鈴木静子
浴衣着て橋を渡りし日暮かな	一関市	小岩	秀利	店先の苔玉ころと傾ぐ夏	盛岡市	鈴木静子
恋し愛して年経れし合歓の花	一関市	小岩	秀利	古写真のぶくつとした手捕虫網	盛岡市	鈴木静子
草刈女アザミの前で鎌止まる	盛岡市	谷川	紅	急降下に巣立つおしどり小さき羽	盛岡市	工藤陽子
引かれ行くみみずの骸早り梅雨	盛岡市	谷川	紅	日うらうら賢治に会いに材木町	盛岡市	工藤陽子
あおられて大路闊歩の楓落ち葉	盛岡市	佐々木	洋子	蝉鳴くや八幡の杜米内像	盛岡市	本宮睦久
二百キロ瞳かがやく鮭遡上	盛岡市	佐々木	洋子	青葉雨あがる赤レンガ佇む	盛岡市	本宮睦久
ソユーズに七夕の夢満載に	盛岡市	佐々木	洋子	馬ツコの鈴とシンクロ中津川	盛岡市	本宮睦久
錦秋のどこからも見ゆ八幡平	新潟県	伊藤	一二三	啄木の通いし街道にホトトギス	盛岡市	大井真紀子
朝顔のおなじ高さの蛇屋町	新潟県	伊藤	一二三	夏霧や赤べこ親子草を食む	盛岡市	大井真紀子
「映え」狙う井石割桜朝の裁判所	盛岡市	梓	おん	盛岡を住処とする娘雲の峰	福島県	有馬洋子
職員玄閑床の花びら春の朝	盛岡市	梓	おん	釘に吊る鮫鱈の笑みぶつたぎり	福島県	有馬洋子
開運橋山河のコントラストかな	盛岡市	梓	おん	櫓高きめ組の屯所青時雨	盛岡市	阿部ゆき子
夏支度ダウンに何時の日の懐炉	盛岡市	梓	おん	縁側の足踏みミシン風涼し	盛岡市	阿部ゆき子
靴擦れに耐え向かう社の忘年会	盛岡市	梓	おん	賢治詩の風よ光よ遠青嶺	盛岡市	阿部ゆき子
春の雨花びら纏う通勤車	盛岡市	梓	おん	熱爛や南部煎餅あてにして	盛岡市	篠村恵美子
訝して牧を占むるやほととぎす	盛岡市	高橋	勝吉	もりをかは水の町なり黄鶴鴒	盛岡市	篠村恵美子
チヤグチヤグの馬の髪梳く青田風	盛岡市	高橋	勝吉	大釜の底に豆がら冬隣	盛岡市	篠村恵美子
涼しさや思ひの募る中津川	盛岡市	高橋	勝吉	薫風やかからくり時計動き出し	青森県	川守田いつみ
五月晴れ水面にそよぐ畦の花	盛岡市	さいとう	せいこ	行儀よき海猫の整列空蒼し	青森県	川守田いつみ
太鼓の音心に響く祭りあと	盛岡市	さいとう	せいこ	南風ねぐらへ急ぐ鳥の群れ	青森県	川守田いつみ
雪の朝ぬくもりつなぐ幼き手	盛岡市	さいとう	せいこ	大ジャンプ解剖前のうしがえる	盛岡市	伊藤恵美
岩手山誰の物やとれんげ問う	神奈川県	高松	富士子	昼の星固めたやうな額の花	盛岡市	伊藤恵美



風死せり事故渋滞の現場かな	盛岡市伊藤恵美	水澄める川辺に紅子美術館	盛岡市清水端鬼子
鮭帰る鮭も盛岡市民なり	盛岡市伊藤恵美	川土曳く孤老ありけりカキツバタ	盛岡市片倉恒子
館坂の五叉路へだてて夕立かな	盛岡市伊藤恵美	残る白鳥を見守る人の絶へず夏	盛岡市片倉恒子
天までも響くさんさや夕立呼ぶ	盛岡市伊藤恵美	カウベルを鳴らして子らの初登山	盛岡市片倉恒子
夏雲にアーチのスクラム展望台	盛岡市伊藤恵美	幸呼来の聞こえぬ街に浴衣着て	盛岡市片倉恒子
川遊びライトアップの鉄塔なご窓	盛岡市伊藤恵美	芸妓まね盛岡音頭を踊り出す	盛岡市片倉恒子
深緑 絵画の森か鶴ヶ池	盛岡市伊藤恵美	おへれんせ鬼が手招き夏の杜	盛岡市片倉恒子
子等遊ぶ白暮の境内母が呼ぶ	盛岡市伊藤恵美	蝉時雨コロナゼロなるプレッシャー	盛岡市片倉恒子
鹿跳ねてうなだれ竹が春仰ぐ	盛岡市伊藤恵美	風薫る病室の外青い空	盛岡市片倉恒子
栗ひろふ愛宕の空に母を追う	盛岡市伊藤恵美	不来方に三川まみえ月涼し	盛岡市片倉恒子
もりをか月の涼しく開運橋	盛岡市伊藤恵美	玫瑰の花赤赤と山の駅	盛岡市片倉恒子
星涼し賢治啄木もどる里	盛岡市伊藤恵美	めらしこにわらしこ弾む川遊び	盛岡市片倉恒子
県北の貧しき村や蕎麦の花	盛岡市伊藤恵美	夏の盛岡世界唯一の無コロナ地	盛岡市片倉恒子
「黒い雨」の映画の記憶原爆忌	盛岡市伊藤恵美	夏コロナのみちのく静か不要不急	盛岡市片倉恒子
降る星の静まり返る怖さかな	盛岡市伊藤恵美	夏コロナ地震起きるなど祈るだけ	盛岡市片倉恒子
織姫や待ち焦がれたる上船券	盛岡市伊藤恵美	散歩道郭公の声まねてみる	盛岡市片倉恒子
田植人泥にまみれてまるまつて	盛岡市伊藤恵美	白つつじ月命日の墓に咲く	盛岡市片倉恒子
子育てを終へし我らの夏休み	盛岡市伊藤恵美	薫風を大きく吸い込む網張路	盛岡市片倉恒子
友と訪ふ街の画廊や啄木忌	盛岡市伊藤恵美	千ヤグ千ヤグもさんさも踊れぬ新コロナ	盛岡市片倉恒子
暮めきて赤レンガ館夕立晴	盛岡市伊藤恵美	南部富士望む湖水の通し鴨	盛岡市片倉恒子
開運橋トラスに切られつつ二星	盛岡市伊藤恵美	雪形の鷺の勇姿や岩手山	盛岡市片倉恒子
賢治詩碑桜竜めきうねりたる	盛岡市伊藤恵美	更衣眩い車内手にスマホ	盛岡市片倉恒子
宝積に生き来てコロナと見る桜	盛岡市伊藤恵美	遠野郷百拾年の夏に入る	盛岡市片倉恒子
深沈の牛にコロナも寄りつかず	盛岡市伊藤恵美	溶岩原を眼下に緑裏岩手	盛岡市片倉恒子
宣言があけて躍るやランドセル	盛岡市伊藤恵美	女学生髪もカツトの更衣	盛岡市片倉恒子
若者の白シャツ眩し梅雨晴間	盛岡市伊藤恵美	万緑や峠の茶屋の塩むすび	盛岡市片倉恒子
藍染の暖簾掬いて青あらし	盛岡市伊藤恵美	雨上まぬ打たるるままの青蛙	盛岡市片倉恒子
露草の瑠璃にこころも染まりそう	盛岡市伊藤恵美	山寺のところ狭しと七変化	盛岡市片倉恒子
猫でさえ片蔭選りて歩く午後	盛岡市伊藤恵美	紫陽花が送迎してる無人駅	盛岡市片倉恒子
痛み止め貼って出陣菌狩	盛岡市伊藤恵美	止まぬ雨傘もささずに墓	盛岡市片倉恒子



造花ひとつ祭髪よりこぼれしか	盛岡市	二階堂光江	壁ぎわに自転車昼顔のからみつく	埼玉県	高橋眞理
万緑やふれればしやぶる赤ん坊	盛岡市	二階堂光江	疾駆する車窓に映る遠火花	埼玉県	高橋眞理
ほうたるになりたいたけの嬰兒よ	千葉県	千葉信子	野分去りスーパームーン父は逝き	埼玉県	高橋眞理
夏潮や浄土ヶ浜の中にこそ	千葉県	千葉信子	擬宝珠の多きもりおか水澄めり	北上市	深澤洋子
螢に晩年といふ白のあり	千葉県	千葉信子	白波を残し山湖に青吹けり	北上市	深澤洋子
店先のハチの似顔絵忘れ雪	盛岡市	佐藤亮子	くろがねの風鈴こもハーモニ	北上市	深澤洋子
靴音の夕立ちを呼ぶフラメンコ	盛岡市	佐藤亮子	青蘆を鳴らし北上川の風	宮城県	高宮義治
みちのくの青芝にほふ啄木碑	盛岡市	佐藤亮子	川風に吹かるるさんさ踊りの夜	宮城県	高宮義治
南無阿弥と唱へつ螢鳥賊拾ふ	滝沢市	塚本潤一	涼風へ開くつぶらな輓馬の眼	宮城県	高宮義治
蚕豆を剥けば胎児の眠るやう	滝沢市	塚本潤一	百人の神に一礼泳ぎ人	紫波町	藤戸ちよ子
為政者が何ぞ言ひをり熱帯魚	滝沢市	塚本潤一	啄木碑賢治の墓碑に小鳥来る	紫波町	藤戸ちよ子
山裾におどる早笛や風を呼び	石町	村上ふたば	一歳で父を亡くした終戦日	盛岡市	大星雄三
逃げ水や鉛のころゆるると	石町	村上ふたば	如是我聞汗馬の労に稔る秋	盛岡市	大星雄三
一人居りふと一匹の螢かな	雫石町	村上ふたば	俳諧の夢想に亀の鳴くといふ	盛岡市	大星雄三
お玉杓子モネの池にもゐたのかな	花巻市	前田寒雀	廉潔の鎖火の走る春の闇	盛岡市	大星雄三
水墨のあはあはにじむ冬の山	花巻市	前田寒雀	岩手山面を映す中津川	花巻市	瑜伽心
静寂の啄木生家落葉掃く	花巻市	前田寒雀	コロナ失せ馬コチャグチャグ待ち侘びる	花巻市	瑜伽心
姥百合が咲いて萬歳父偲ぶ	盛岡市	小苺米淳一	人情と山河も揃う善き景色	花巻市	瑜伽心
聖寿寺に坐れば鶯も我が仲間	盛岡市	小苺米淳一	曲り目は念には念を畦を塗る	盛岡市	小畑柚流
中津川裸足水掻き月見草	盛岡市	小苺米淳一	夏落葉鬼の手形のある巨石	盛岡市	小畑柚流
天昌寺虫の音集く柵の跡	宮城県	小山田光一	七変化開運橋は佳き名かな	盛岡市	小畑柚流
飛ぶ鮎や笠はながれに中津川	宮城県	小山田光一	薫風や擬宝珠ゆかしき小京都	宮城県	山内雅子
ビール泡ゆるるさんさや中の橋	宮城県	小山田光一	妖精の憩ふみどりの南部富士	宮城県	山内雅子
野を巡り賢治の森へ青嵐	盛岡市	内藤麻子	驟雨去り鬼の手形の石探す	宮城県	山内雅子
鮭のぼる川に街の灯映りけり	盛岡市	内藤麻子	螢はああ星の雫だったのか	宮城県	山内雅子
不動尊睨みかえして夏旺ん	盛岡市	内藤麻子	脈々と銀河は語るイーハトーブ	宮城県	山内雅子
手指消毒マスク装着夏期講座	盛岡市	川道蓉子	盛岡の空の青さよ鳥渡る	宮城県	山内雅子
稲架の棒集め日に干し秋収	盛岡市	川道蓉子	みちのくの夕月に解く恋の文	宮城県	山内雅子
露台でソプラノパート歌わされ	盛岡市	竹鼻裕子	秋風を乗せて列車の灯のとほく	宮城県	山内雅子
星まつりケンタウロスの筋肉や	盛岡市	竹鼻裕子	東京発盛岡着寒稽古	奥州市	郡司幸子

重力の美しきかな春の雪	奥州市郡司幸子	梅雨雫垂れ太り透き誰を見る	矢巾町高橋世成
散居家と散居家つなぐ麦の秋	奥州市郡司幸子	大花火カメラ構えてよしここだ	矢巾町向川原崇人
アトピーの顔に寒九の水叩く	北上市伊藤剛	教科書を団扇代わりにみなあおぐ	矢巾町千葉結陽
次の日の轢かれ干せたる兜虫	北上市伊藤剛	貝殻を踏んでしまった夏の浜	矢巾町山内咲
南部杯馬にも騎手にも秋茜	北上市伊藤剛	寂しげに思いをはせる夜の秋	矢巾町山内咲
梅雨寒の暗黒物質現代文	矢巾町佐藤千菜	夏の夜一番輝く星見つけ	矢巾町佐藤玲奈
水槽の底に残され蛇の皮	矢巾町加藤文也	君は風揺れる私は風鈴か	矢巾町荒谷慧斗
蝸牛通路横断夢の跡	矢巾町加藤文也	カナヅチの僕は海見て目は泳ぐ	矢巾町荒谷慧斗
向髪結わえた君の光る汗	矢巾町千葉春月	一夏に流れる星と涙跡	矢巾町佐々木彩音
最初はグー冷蔵庫前小競り合い	矢巾町石杜唯	梅雨の星静かに笑う君のよう	矢巾町佐々木彩音
駆け込んで溺れるほどにアイステー	矢巾町下向萌凜	梅雨の音病んだ心に侵りける	矢巾町鎌田樹
花火鳴る皆の視線をひとりじめ	矢巾町佐々木愛	外眺め微睡み誘う蟬の声	矢巾町鎌田樹
静寂の中に扇子の声を聞く	矢巾町佐々木愛	雲の峰親子井は旨かった	矢巾町平沢康至
下校中お岩の如き夏の草	矢巾町田川桃圭	炎天下カツカレーひとつもらえんか	矢巾町平沢康至
古本も君読みてこそ夜の蜘蛛	矢巾町田川桃圭	梅雨の夜君の涙にこころぐし	矢巾町白浜凜子
くつしたの映えるくるぶし君跣	矢巾町千葉風歌	日焼け止め駆け寄る球児に意味はなし	矢巾町田中朝陽
部屋の隅梅雨は暗しと望遠鏡	矢巾町千葉風歌	醤油とり探す振りする冷蔵庫	矢巾町田中朝陽
帰り道あらわる月やねむり草	矢巾町梅本帆乃香	破裂音「よしっ!」と叫ぶ水無月よ	矢巾町川村翼
通知待ち揺らぐふうり微炭酸	矢巾町村松涼雅	おまたせと君の横顔アイステー	矢巾町高倉ひなた
帰り来て炭酸一杯夜濯ぎか	矢巾町村松涼雅	紫陽花やきれいだけれどおおきすぎ	矢巾町高倉ひなた
ソーダ水静まれ私燃ゆる心	矢巾町佐々木結香	帰り道チャリのライトに飛び込む蚊	矢巾町工藤聡士
遠花火君の横顔夢だった	矢巾町佐々木結香	ただいまを言うより先に飲む麦茶	矢巾町工藤聡士
夜の蟬家族の笑みと音楽隊	矢巾町川崎蓮太	暑き日のノートに残るへこみ跡	矢巾町両川大輝
この想い会わぬ矢印短冊に	矢巾町川崎蓮太	墓参り並ぶ先祖に嫉妬する	矢巾町両川大輝
夏の風走れば撫でる僕の頬	矢巾町小田島秀太	夏夕べ明るさ残る野球場	矢巾町北館夢大
蜃気楼止まらぬ汗が顔伝う	矢巾町小田島秀太	部活終え頭つっこお冷蔵庫	矢巾町伊藤陽人
早朝に窓開け放ち風涼し	矢巾町渡辺羽奈	心太すすっておせるうちのばば	矢巾町下川浩太郎
橋の上水面にうつる火花かな	矢巾町瀬川天愛	近頃は連日出勤安い傘	矢巾町工藤光
ラムネ瓶みんまでせーのお疲れさん	矢巾町瀬川天愛	極わずかだけれど光る梅雨の星	矢巾町佐々木菜夏美
夕立や顔下げ前へ駆け抜けて	矢巾町高橋世成	一つ三つ輝きを増し梅雨の星	矢巾町佐々木菜夏美



野球帽汗にじまして追う白球 矢 町 塚本 璃空 不來方は不落の城ぞ花万朶 盛岡市根本孝治  
 初打席炎天に心とぎすます 矢 町 塚本 璃空 水中花優しく揺れる介護寮 盛岡市根本孝治  
 時鳥真似っこ上手な友の声 矢 町 立花 美和 引揚げの夫のその後や夕端居 盛岡市渡辺紀子  
 目が合うと幸せ気分扇風機 矢 町 立花 美和 星空の風に梳きたる洗ひ髪 盛岡市渡辺紀子  
 練習で全て出しきり汗流す 矢 町 館洞 匠汰 蓬長くここも空き家か風もなし 北上市伊藤藤剛  
 炎天下太陽と重なるハイパント 矢 町 館洞 匠汰 托卵を卑怯と言うも鳥交る 北上市伊藤藤剛  
 君とみる花火大会画面越し 矢 町 根田 爽之助 女正月南部煎餅バター塗る 北上市伊藤藤剛  
 畦道で悩みを叫ぶ夏の夜 矢 町 根田 爽之助 風光る少しかざして城山に 盛岡市蘭延延  
 夏の朝青春漕いで小麦肌 矢 町 石川 千那 城山のえにし語りべ青嵐 盛岡市蘭延延  
 梅雨冷えや袖の長さを迷う朝 矢 町 及川 颯木 問わずして桜薬降る先人忌 盛岡市上ノ澤一彦  
 冷蔵庫おかまいなしに開け放し 矢 町 及川 颯木 ぽつねんと浮ぶしらとり青芒 盛岡市上ノ澤一彦  
 目を向ける噴水越しの待ち合わせ 矢 町 齋藤 惟 کرونا禍や一途な紫陽花通り雨 盛岡市上ノ澤一彦  
 金魚すくい君とのように擦れ違ふ 矢 町 齋藤 惟 はぐれ蟻一瞬命たら踏み 盛岡市上ノ澤一彦  
 噴水の宝石輝く空のあと 矢 町 館澤 未來 孫来るな「一本桜」ハガキ出す 栗石町高橋半文  
 汗拭う我を笑うかぬるい風 矢 町 加藤 源浩 梅雨空やコロナにぬれて馬も泣く 栗石町高橋半文  
 梅雨冷えの朝に微睡む薄明り 矢 町 加藤 源浩 盆行けぬ遠くか細き吾子の声 栗石町高橋半文  
 涼しき日々あの岩手はどこへやら 矢 町 高橋 文弥 君の手に触れて私の希望なり 釜石市奥寺茜  
 広島忌知らぬ少年家の中 矢 町 高橋 文弥 今日も行く祖母の笑顔と草むしり 釜石市奥寺茜  
 グラウンド青春のせて走る君 矢 町 近藤 沙英 網を曳く親父の両手はタワシかな 釜石市佐々木健太  
 アイスティー氷の音と君を待つ 矢 町 近藤 沙英 夏の夜やさんさの鼓動に夢うつつ 釜石市佐々木健太  
 夏風にのって聞こえる笛の音 矢 町 赤坂 日夏 今こそは世界を癒やせ南部風りん 釜石市稲玉宇平  
 陽にあたり麦茶の氷がせめぎあい 矢 町 赤坂 日夏 やいと花などとおだてて絡まるる 釜石市稲玉宇平  
 君の打つ夏の弦音に胸打たれ 矢 町 佐々木 智子 蜂の巣の三日がかりを毀ちたり 釜石市稲玉宇平  
 アイスコーヒースまうすまうす 矢 町 佐々木 智子 終電は0番ホーム銀河ゆき 釜石市砂金眠人  
 梅雨の候掛かる虹色思い出す 矢 町 吉田 優紀 山瀬来る子牛の息に溶けあふて 釜石市砂金眠人  
 またひとつ蚊の届けもの増えてゆく 矢 町 藤原 はな 川波に揺るるゆかたやふたつ影 釜石市砂金眠人  
 炎天にオシロスコープ目にうつる 矢 町 藤原 はな 米櫃の底に一粒啄木忌 釜石市砂金眠人  
 古蚊帳の香や変わらなない志 矢 町 尾原 海李 盛岡の二度泣き橋を渡る春 釜石市上村一誠  
 躓きて秘密できたり水菖蒲 矢 町 尾原 海李 盛岡の二度泣き橋を渡る春 釜石市上村一誠  
 南部富士鎌倉と謂う道青田 盛岡市根本孝治 盛岡の二度泣き橋を渡る春 釜石市上村一誠

星月夜レコード針はプツプツと	アマビエの南部風鈴ここにあり	鹿踊りしなるささらや法師蟬	「おでつてくね」誘われ我は汽車に乗る	廃屋やたわわの柿は人目ひく	青密柑指染め吾子のしかめつら	啄木と賢治のうたう十の春	疫ゼロ県民性也風薫る	薄暑光あふげば風車のしかかり	土ぼたる其よ飛び違へこひの闇	松籟のさざなみ涼し不来方城	コロナゼロの南部の生氣桐の花	戦観えコロナは見えぬ走馬灯	叶ふなら地球の大气更衣	鬱の種疼く間合の梅雨晴間	紅葉燃ゆ廃校訪ぬクラス会	カッパ淵うわばみ草も目になじみ	走り蕎麦伊能忠敬旅にあり	百日草百一日も咲いており	海月海月私にふれないで下さい	橋駆ける先頭集団吾亦紅	一畝が三畝になりぬ草むしり	郭公の訛正調岩手山	農学部矜持の正門桐の花	千年の榎の大樹や雷雨中	蟬の眼と目が合ひにけり蟬の穴	獄中にマンデラの見し夕焼かな	守護神の海女の風鈴鳴りにけり	恐竜の北上山地鳥渡る	芝桜色付いてきて新学期
北上市	北上市	北上市	北上市	北上市	北上市	北上市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	奥州市	奥州市	奥州市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	奥州市	奥州市	奥州市	奥州市	奥州市	神奈川県	神奈川県	久慈市	久慈市	盛岡市	
世迷い猫	世迷い猫	世迷い猫	世迷い猫	世迷い猫	世迷い猫	佐藤長子	笹百合香	笹百合香	笹百合香	梅森サタ	梅森サタ	梅森サタ	清水喜美子	清水喜美子	清水喜美子	旗福ひろし	旗福ひろし	旗福ひろし	小笠原祐子	小笠原祐子	池内雅一	池内雅一	池内雅一	英龍子	英龍子	和城弘志	和城弘志	恵子	
チャグチャグと初夏を呼んでる馬の列	夏の露棚田とともに百二歳	草しごときりりと楽し忍冬	鮎解禁忍ひともじの三十年	六月の鈴の先導チャグチャグ馬コ	馬上の子暑さにゆらりチャグチャグ馬コ	夏盛んさんさ太鼓のしみる夜	もてなしはおでんせ湯の香蕎麦の花	盆の月先づは無病を願ひけり	みちのくに星がぎつしり地藏盆	陸中はおとぎの国ぞ天の川	風鈴や南部鉄器の音とある	さくら咲く盛岡かたぎ石を割る	木々それぞれ緑立つるや雨上がり	色千々に紫陽花街道咲き乱る	咲き誇る合歓の花何故閉じゆく葉	ひとときの介護休憩合歓の花	夏の蝶車椅子母百二才	若竹の眩しすぎたる老いの母	代わりたい代われぬ命梅雨最中	妹の命乞いする梅雨最中	妹の残された命どのくらい夏	妹の姿だけなき夏座敷	妹の癌コロナが憎き原爆忌	点滴に命をつなぐ水中花	ままならぬ外出八十八夜寒	見過ごせぬ一本だけの夏蕨	満天の銀河鉄道賢治ゆく	巡りくる三月津波てんでんこ	鮎も棲み町澄みわたる中津川
盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	矢巾町	花巻市	花巻市	花巻市	青森県	青森県	青森県	秋田県	秋田県	秋田県	陸前高田市	陸前高田市	陸前高田市	陸前高田市	陸前高田市	陸前高田市	陸前高田市	陸前高田市	八幡平市	八幡平市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市
恵子	高瀬朝子	高瀬朝子	高瀬朝子	高瀬朝子	高瀬朝子	及川恵子	及川恵子	及川恵子	及川恵子	高橋和枝	高橋和枝	高橋和枝	石垣浩造	石垣浩造	石垣浩造	石垣浩造	石垣浩造	石垣浩造	石垣浩造	石垣浩造	石垣浩造	石垣浩造	石垣浩造	石垣浩造	石垣浩造	石垣浩造	石垣浩造	石垣浩造	石垣浩造







暗渠出る水音高し黒揚羽	響き来るさんさの踊りオンライン	灰色の雲従へて梅雨夕焼	夏つばめダムの底ひに村ありき	賢治忌や横断歩道を渡る猫	色かえぬ白紫陽花や朝清し	朝の虹豪雨災害の募金箱	馬つこの背中受け継がれたり青田道	夏兆す土手に帽子と靴下と	幾万の鮭ひょうたん島を目指し来る	南部風鈴脚立を降りてながめをり	もりおかを眺む岩山夏帽子	啄木寝ころびし城社草いきれ	語り部の遠野訛りや秋立ちぬ	ちやぐちやぐの祭り支度や南部馬	黒板に旅ニ出マスと賢治の忌	主人なき休耕田や雲の峰	鹿が飛ぶ七十年経たる杉の山	花桐や空に溶け込む紫紺かな	ホトトギス思ひ届かぬさ夜時雨	咳ひとつ視線飛び交う夏がゆく	梅雨晴れや父の如くに鎌を研ぐ	初恋の香り懐し月見草	コロナ禍をどう生き切るか古代ハス	啄木にお城の夏草よく似合う	昭和の日コロナに耐ふる昭和の子	青葉山背に貫禄の青邨碑	夏の辻マスクしてある地藏尊	棒にふるドミノ並べや猫の恋	釜淵の滝のごと水面より出づ
神奈川	奥州市	奥州市	奥州市	花巻市	花巻市	花巻市	大槌町	大槌町	大槌町	盛岡市	盛岡市	盛岡市	秋田県	秋田県	秋田県	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	一関市	一関市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	東京都
金川眞里子	遠藤カオル	遠藤カオル	遠藤カオル	深月	深月	深月	古館育子	古館育子	古館育子	三浦千代子	三浦千代子	三浦千代子	阿部清流子	阿部清流子	阿部清流子	栗澤忠志	栗澤忠志	栗澤忠志	栗澤忠志	栗澤忠志	栗澤忠志	一関市	一関市	藤本千二	藤本千二	加藤眞冶子	加藤眞冶子	加藤眞冶子	月城花風
触る垣の冷たき不来方城址かな	涼しさや釜師の祖父の南部鉄瓶	どっかりと大竈あり盆用意	赴任の地ふるさととして青葉木菟	金魚玉賢治ゆかりの喫茶店	不来方城の花は満開吾子の任地	赤屋根の番屋を過る夏燕	長梅雨や山の鴉の嗚呼と鳴く	人に寄る馬の目つぶら花木槿	秋色の県都に石割り桜かな	中津川県都の中を鮭俎上	不来方の天主臈に秋の月	曾孫らの力くらべの瓜割る	夫忌日お浄土結ぶ二重虹	長梅雨や栞抜きつつ本開く	帰る鳥北斎刻む山になる	山巔の小屋のカレーや夏の星	公園にクレヨン匂ふ若葉風	南昌莊玻璃ゆらめきて夏盛り	闇に聴く籠打つ羽音甲虫	林間を縹に染めし四葩かな	コロナ禍や言葉いとおし桃の花	岩手山鷺飛び立ちて田植笠	砂時計さらさらさらと冬日射し	新聞で折紙つくる五月忌	紫陽花の水滴の空燦々し	ただ歩くひたすら歩く夕焼雲	暁闇に田を透かし見る半夏生	きょうもまた生かされてあり夕端居	鏡餅丸める母の笑顔かな
東京都	静岡県	静岡県	千葉県	千葉県	千葉県	宮城県	宮城県	宮城県	一関市	一関市	一関市	紫波町	紫波町	紫波町	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市
月城花風	長田弘子	長田弘子	富澤さち子	富澤さち子	富澤さち子	長谷部俊夫	長谷部俊夫	長谷部俊夫	藤野田露	藤野田露	藤野田露	須川ヒサ子	須川ヒサ子	須川ヒサ子	小野寺昭美	小野寺昭美	小野寺昭美	小野寺昭美	中村万寿美	中村万寿美	中村万寿美	中村万寿美	岡市	岡市	岡市	岡市	岡市	岡市	岡市



橋渡る汽車の車窓の初富士よ	真夜中の本坪鈴や初詣	銀やんま牧野の露を飲みにけり	樵来て赤げら木より離れけり	境内の鶉の死骸に明日香風	秋鴉檻の孔雀をしげしげと	秋燕の群れの二手に分かれけり	真雁なる己も妻も転生者	水中花揺るる事無きを得んと	滴りを湛えて地底湖の平	いつ掴みいつ潰したか蟬の殻	身に入むや問診に書くガン系譜	秋蝶に一瞬笑顔蘇る	シティマラソンスコス湖畔駆け抜ける	呼びかけに眉をかすかに冬薔薇	七草や飲み込みを待つ介助の手	チアノーゼの額に額虎落笛	梅の花宗任詠みし母校の碑	青龍の湧水旨し稽古後	凍てつく夜桜山での吟稽古	番犬を跨ぎ大暑の街へ出る	遠山をよく見ゆる日や田を植うる	迎火を息つき足して燃え立たす	唸り上ぐ田植機快調空は青	乱鶯や地熱抱へし伐採地	ランニングの日焼くつきり相撲取	今日の陽を土に吸はせむ草を引く	世の必要なる人となれ天瓜粉	人としての母が口癖月見草	瀬の音も秋のお子猿ヶ石川
福井県	福井県	福井県	福井県	福井県	福井県	福井県	福井県	滝沢市	滝沢市	滝沢市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	釜石市	釜石市	秋田県	秋田県	奥州市	奥州市	奥州市	花巻市	花巻市	盛岡市		
小林陸人	小林陸人	小林陸人	小林陸人	小林陸人	小林陸人	小林陸人	小林陸人	長澤拓生	長澤拓生	長澤拓生	熊谷きく子	熊谷きく子	熊谷きく子	熊谷きく子	熊谷きく子	熊谷きく子	熊谷きく子	谷藤稔	谷藤稔	斎藤淳子	斎藤淳子	古川和子	古川和子	古川和子	高橋静	高橋静	佐々木正明		
夕顔の実の縄電車風通る	凜として空家見守る立葵	中津川月影さやか青芒	源平の螢とび交ふ名乗り坂	街に人垣ちやぐちやぐ馬こ鈴鳴らし	新緑の石割桜光満つ	神域を席卷したり蝸や	向日葵のかすかに傾ぐうすぐもり	朝寒や湯の沸く音にリズムあり	二親の病みて部屋数あまる春	納骨の読経かき消すせみ時雨	遠き日の兄の背チャグチャグ馬コ来る	人影は湯番か月の岩手山	爽やかや遠まなぎしの賢治像	橋の名に彼の一字あり草紅葉	暮れどきの生活の匂ひ雁渡る	地ビールに並びよ市の風まとふ	夏ふかし五百羅漢のふくみ声	向日葵の明日へつづく日和かな	神杉の裏に水音蝉しぐれ	竹林の薄暗がり梅雨の蝶	緑陰やニホンカモシカ悠悠と	木下闇ざしきわらしがいるような	さんさ踊りコロナ恨めし夏果てる	藤椅子の軋み忘るるほどに痩せ	二階よりボーイソプラノ立葵	円相を風ぬけゆくや夏座敷	絶え間なき轟音の空酷暑かな	晩涼やさんさの帯の揺れに揺れ	裁かるる者に見せばや石割桜
盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	矢巾町	矢巾町	盛岡市	盛岡市	盛岡市	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	花巻市	花巻市	二戸市	二戸市	二戸市	秋田県	秋田県	秋田県	東京都	東京都	東京都
佐々木正明	佐々木正明	村谷龍四郎	村谷龍四郎	村谷龍四郎	及川恵子	及川恵子	及川恵子	川井純子	川井純子	川井純子	奥田卓司	奥田卓司	村田加寿子	村田加寿子	村田加寿子	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県	青森県

燕子花南部盛岡城下町	避難路のその先は黙実玫瑰	遠き日の父の背中の遠花火	さんさ呼ぶ鬼の手形や踊唄	藤椅子やコナ籠りのイーストウツト	水蓮の水面を人影又一人	幼児も婆も祭りよチョイワのヤッセ	桜咲き山の麓を広くして	桜咲き大和魂日本国	桜雨空を眺めて今日も家に入る	自転車を止めて漢の三尺寝	ねぢ花や可憐に見えて気難し	蝉しぐれ城主の像は弾と消え	空蝉や前世も来世も蝉ですか	三陸のやませ纏いし大堤防	海難忌開襟シャツ貝釦	東稲山に未来預けて穂絮飛ぶ	花火揚げコロナの憂ひ弾き出す	一匹の蠅に囃され辞書叩く	境内の万緑全ての気をしづめ	煮とろけてくせなき夕顔だしの味	帰省子がやっぱり冷麺アンバター	異次元へ霧の岩山電波塔	木洩れ日の青葉の街をメルセデス	逃げ水や昨日のごとし何もかも	みちのくの速さを走るローカル線	岩手山雪解け水の煌煌と	小岩井や綿羊の毛刈り緑濃し	村芝居脚本に無き子の現るる	風音に親より敏き仔馬かな	
盛岡市及川和生	一関市沖田誠子	一関市沖田誠子	一関市沖田誠子	北上市佐藤ユリ子	北上市佐藤ユリ子	北上市佐藤ユリ子	花巻市智	花巻市智	花巻市智	盛岡市永澤千恵子	盛岡市永澤千恵子	盛岡市永澤千恵子	盛岡市林本五月	盛岡市林本五月	盛岡市林本五月	奥州市梅森サタ	奥州市梅森サタ	奥州市梅森サタ	盛岡市本吉節子	盛岡市本吉節子	盛岡市本吉節子	盛岡市本吉節子	神奈川県高松富士子	神奈川県高松富士子	盛岡市林本五月	盛岡市林本五月	盛岡市林本五月	盛岡市林本五月	東京都石崎宏子	東京都石崎宏子
八月や昭和に生きし人遠し	時空超え銀河鉄道駆け抜ける	早空賢治も人も外に出でよ	初岩手春への妄想单身酒	雪解雫みちのくの母岩手山	鮭走る不來方の秋足早に	手の豆に金なし苦あり吾がくらし	タヌキめ!とトウモロコシの喰い散らし	ため息を吐かせるごとく秋の雨	大音量都南の花火時忘れ	風吹いて母と語る秋桜	手を合わせ水ようかんとおりんの音	甲子園応援席も汗きらり	四季のつど湖底の村は夢枕	ふるさとの湖底なつかし雲と山	青空を眼めておもう子らのこと	南国の水禍をふつと船遊び	草千里又三郎の風薫る	中津川出水「わたしはここにいる」	こまち待つ鉄っちゃん夏ドッキング	秋日和盛るふる里フルマラソン	郭公と茗荷畑の老父の背	笛太鼓さんささんさとオーケストラ	隣席の恋人北へ我宅早に	新幹線待つ恋人を帰省時	通学路夕焼に問う進学路	麦茶冷え家まで届くさんさの音	帰省バス行きつけの床屋頬ゆるむ	雪化粧擬宝珠欄干上ノ橋	旅花火南部盛岡擬宝珠橋	
神奈川県藤田ミチ子	神奈川県藤田ミチ子	神奈川県藤田ミチ子	盛岡市堀江義幸	盛岡市堀江義幸	盛岡市堀江義幸	盛岡市吉田政美	盛岡市吉田政美	盛岡市吉田政美	盛岡市佐々木心	盛岡市佐々木心	盛岡市佐々木心	盛岡市花巻	盛岡市鷺	盛岡市鷺	盛岡市鷺	奥州市岩淵正力	奥州市岩淵正力	奥州市岩淵正力	盛岡市句	盛岡市句	盛岡市句	盛岡市句	盛岡市岩手から世界へ	盛岡市岩手から世界へ	盛岡市平元貴	盛岡市平元貴	盛岡市平元貴	盛岡市平元貴	盛岡市及川和生	盛岡市及川和生

百円のセールの花束啄木忌	兵庫	杉岡	壱風	わたげ追う五才の笑に陽はやさし	盛岡	玉川	とし枝
青龍のいづくに去りて井戸の枯る	盛岡	森三	紗	あじさいに心しられし色変げ	盛岡	玉川	とし枝
祖母の庭白ツツジ咲き花サラダ	盛岡	森三	紗	幼子の水掛合の響く縁	盛岡	中島	理子
おそろいのサクラランボの柄姉の逝く	盛岡	森三	紗	天窓の音一段と夕立ち来る	盛岡	中島	理子
春風やフードバンクの箱の中	盛岡	中野	風子	静謐の空高く立つ雲の峰	盛岡	中島	理子
枝剪つて窓の秋雲掴めそう	盛岡	中野	風子	ぷつくりの桔梗とけふの願ひ事	盛岡	吉川	香廉
膝に在る君のつむりよ温もりよ	盛岡	天沼	みやび	松園の爺背を伸ばす百日紅	盛岡	吉川	香廉
存えて猫はやよいの雲の上	盛岡	天沼	みやび	額の花母に聞きたしことありて	盛岡	吉川	香廉
十五夜の楳円に見えて目の不思議	盛岡	天沼	みやび	夏迎え祭りあちこち花火空	盛岡	吉川	香廉
淡民の句会へ急ぐ麦の秋	盛岡	中村	恵如	秋言えば紅葉彩る甘い柿	盛岡	グエン・ティ・フォン	
深緑板の間染めて雨しとど	盛岡	中村	恵如	盛岡で夏を感じるさんさ見て	盛岡	グエン・ティ・フォン	
人生は登るばかりよ下山なし	盛岡	中村	恵如	風が吹く桜が落ちる川波紋	盛岡	グエン・ティ・フォン	
三代の炉端で手緬う牛蒡注連	盛岡	澤藤	はなの	盛岡の水流れ聞く川休む	盛岡	ホセ・フロイラン・エス	
花莫産を宇宙に敷いて我が居場所	盛岡	吉田	由紀子	冬の風心に届く体振る	盛岡	ホセ・フロイラン・エス	
麩を食べて沈黙通しけり	盛岡	吉田	由紀子	汗したり氷目にして小銭手に	北上市	ホセ・フロイラン・エス	
送る荷へ南部風鈴しのばせる	一関	貝沼	正子	服被り鼻が曲がった梅雨きけり	北上市	ホセ・フロイラン・エス	
梅雨晴れ間北上川と岩手山と	一関	貝沼	正子	かけめぐる大慈寺の日々木々の息	北上市	ホセ・フロイラン・エス	
コロナ禍のさんさ踊りやSNS	一関	貝沼	正子	陣羽織の市長先達チャグチャグ祭	青森	磯沼	チヨ
七夕竹開運橋を渡りけり	神奈川	杉浦	早苗	毛虫焼く男でしようど励まして	青森	磯沼	チヨ
美男子の愚痴聞き地蔵山桜	神奈川	杉浦	早苗	朝涼や切子硝子に盛るサラダ	青森	磯沼	チヨ
花冷えや外濠攻める外来魚	神奈川	杉浦	早苗	啄木の歌そらんずる梅雨の闇	青森	黒田	長子
書き継ぎて十年日記木槿咲く	神奈川	杉浦	早苗	チャグチャグ馬こ風にのる鈴みちのく路	青森	黒田	長子
ほらあそこにもひよるねじり花	栗石	吉川	伊津子	南部富士立夏の風を吹き下ろす	青森	黒田	長子
天満宮母校の桜花は葉に	栗石	吉川	伊津子	ため息をつくがに散るや白薔薇	盛岡	安達	広子
雛飾る座敷わらしのきてるかも	千葉	岡田	春人	啄木の停車場道や月見草	盛岡	安達	広子
3・11原始より生きのびて来し	千葉	岡田	春人	標本室の稲かやかと賢治の忌	盛岡	安達	広子
残雪の山ちかぢかかと水鏡	盛岡	千葉	ナホ子	時止めて少女ひらりとダイビング	盛岡	阿部	野の女
天と地に星涼しけり御所の湖	盛岡	千葉	ナホ子	瓦斯灯や城下に火蛾の恋狂ひ	盛岡	阿部	野の女
うつくしき石垣高し秋高し	盛岡	千葉	ナホ子	コロナ禍よ暦めぐりて百日紅	盛岡	川村	のり子
ウイルスで太鼓の音が消えし夏	盛岡	玉川	とし枝	カラスウリレース編むよに夜半の花	盛岡	川村	のり子

中津川釣舟草も歌碑偲ぶ	太鼓の音響かせ願う皆の幸	幸呼来と守り声なき手形かな	古都はしるバスの窓外時代あり	夏の月練習のメモ読み返す	スティホームレースのテールクロスかな	梅雨深し靴音だけのレンガ館	汗光る天パー越しの花車	夕涼のただすこを背にペダル漕ぐ	盆休み主を居待つJUMP1巻	コンクリートの壁より巢立つ燕追う	馬子屋の子燕のにぎわいきのうまで	送り梅雨中津川の流れ狂わす	畦草刈る蝦夷の末の頑固者	コロナより怖い記憶の八月来	樺太は故郷夏の日訪ひにけり	ラ・カンパネラ霜夜に思ひ出す女	クラーラーの書店に人は遊魚めく	にぎり酒吹きこぼれたり啄木忌	くんじょうの煙たなびく啄木忌	啄木の母校の障子白き夏	忙し鳴く雀誰待つ夕暮れて	地を担ぐ白き柱の凍てつ朝	啄木よふるさとの空は今もなほ	夏雲へとどけバンカラ応援歌	溪谷の緑映して手漕ぎ舟	原敬の眠る大慈寺濃あぢさゝみ	間をとりて言葉を捜す団扇風	風涼し多感な男の子弓を引く	ねじれ花赤児返りの三才児	
盛岡市	宮古市	宮古市	宮古市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	奥州市	愛媛県	愛媛県	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	奥州市	奥州市	奥州市	北上市	北上市	北上市	
川村のり子	沢田奈歌子	沢田奈歌子	沢田奈歌子	畠山一美	畠山一美	高橋まどか	高橋まどか	高橋まどか	佐々木牧子	佐々木牧子	佐々木牧子	伊藤さとる	伊藤さとる	伊藤さとる	伊藤さとる	伊藤さとる	伊藤さとる	伊藤さとる	伊藤さとる	伊藤さとる	伊藤さとる	伊藤さとる	伊藤さとる	伊藤さとる	伊藤さとる	伊藤さとる	伊藤さとる	伊藤さとる	伊藤さとる	
帰省して先ずはよ市をのぞきけり	やませ来る冷たき飯に湯をかけて	チャグチャグ馬コ開運橋を渡りゆく	鮭のぼる上の橋もと人を止め	でがんとすと神子田朝市息白し	巨石割れ桜舞い散る裁判所	与の字橋映す川面や蚊鉤竿	郭公の声澄み渡る南部富士	馬柄杓などを持ち出し水を打つ	ままごとの器誰待つ枇杷の花	マリオスを睨む巖鷲の裾紅葉	月冴ゆる彷徨ふ祖母の子守唄	古代ハスアポロ歴史並ぶ紙面	早番の朝顔一輪息ひとつ	遊歩道露草色のパフスリーブ	迷い鹿も川面で涼む夕べかな	ランニング玉の汗に涼の風	スタイホームさんの動画に思いめぐらせ	いにしへの岩に押たる魔の手形	散るさくら古城に舞て詞者偲ぶ	五月雨に濡て色増花菖	空青く鮭の古里中津川	天高く南部盛岡にぎやかに	さんさ踊り記字の切り技き四十年	お城址石垣眺めしわが命	朝散歩とわに育てし吾子ら	通勤開運橋から岩手山	錆びつけど鉄風鈴のチリチリン	雲の峰イーハトーブに猿の旅	運命の楽譜に汗と喝采と	
神奈川県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	盛岡市	盛岡市	宮城県	宮城県	宮城県	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市
長浜よしこ	長浜よしこ	長浜よしこ	長浜よしこ	安藤彌八	安藤彌八	大沼せつ子	大沼せつ子	大沼せつ子	山口たかえ	山口たかえ	山口たかえ	後藤恵子	後藤恵子	後藤恵子	後藤恵子	高橋喜勝	高橋喜勝	高橋喜勝	高橋喜勝	高橋喜勝	高橋喜勝	高橋喜勝	高橋喜勝	高橋喜勝	高橋喜勝	高橋喜勝	高橋喜勝	高橋喜勝	高橋喜勝	高橋喜勝





中津川橋の擬宝珠五月雨るる	秋田県	岡部いさむ	袖とおし母と同じ衿紺上布	滝沢市	小田島もと
やませ来る白き沈黙引き連れて	盛岡市	井康典	修学旅行見送りに盛岡駅友の燥ぐ声	滝沢市	小田島もと
鮭の旅古里を見て完結す	盛岡市	井康典	螢火に重ね合わせし人の一日を	紫波町	中野成子
その角のいよよ鋭く冷奴	盛岡市	村井康典	紫陽花の静かに濡れし琴の爪弾き	紫波町	中野成子
真珠婚梅の香ほどの絆かな	奥州市	桐山信男	忘れな草摘みて彼の机に飾りし中津川	紫波町	中野成子
卵塊や蛸蚪をしじまに解き放つ	奥州市	桐山信男	夕立去るミレーヌ・ドモンジョの手形	盛岡市	菊地十音
魍魎を鎮めし沼の紅葉奏	奥州市	桐山信男	ナイルより帰省北上川岸辺	盛岡市	菊地十音
観音の空へ抜けゆく今朝の秋	埼玉県	森田鈴	旅客機真下大白鳥大飛行	盛岡市	盛岡市
雲の峰心の月日待ちて耐ゆ	埼玉県	森田鈴	闇破る銃撃戦大花火	盛岡市	盛岡市
令和にて一夜限りの遠花火	埼玉県	森田鈴	仰ぐ笑み踊るさんさや艶浴衣	盛岡市	盛岡市
草刈機刈らるる雑草かるやかに	宮古市	佐々木俊子	石割りて雄々し桜が給う意気	盛岡市	盛岡市
根昆布は色よく煮ゆる朝の膳	宮古市	佐々木俊子	賢治忌や空耳のどっどどどど	盛岡市	盛岡市
ウニ漁の覗きめがねの小舟かな	宮古市	佐々木俊子	鶴鴉のいざなうがままロッド振り	盛岡市	盛岡市
熱湯をかけてめかぶの深みどり	宮古市	佐々木俊子	メント・モリ橋の上から鮭眺む	滝沢市	高橋政彦
牡蠣筏静かな波間夫婦船	宮古市	佐々木俊子	うすやきの石割桜半分こ	滝沢市	高橋政彦
マスクして二礼に礼儀正しくし	宮古市	佐々木俊子	山笑う老婆が笑いちりめん絵	住田町	紺野ハツミ
海荒の話などして牡蠣を売り	宮古市	佐々木俊子	煙さそいうれゆく夜店鶏匂い	住田町	紺野ハツミ
美しき白い砂浜夏の海	宮古市	佐々木俊子	えんそくや石割桜仏みやげ	住田町	紺野ハツミ
マスクして風邪予防して眠りつき	宮古市	佐々木俊子	木に高くカラスの物見こびる時	住田町	紺野ハツミ
夫の背を流せし如く墓洗う	宮古市	佐々木俊子	初参り猫舌や甘酒あつし舌ちじみ	住田町	紺野ハツミ
ゴメ鳴くや土用波間の作業船	宮古市	佐々木俊子	石割桜石に座りて年数え	住田町	紺野ハツミ
蒸炒や弊衣破帽の下駄が来る	盛岡市	名久井清流	つゆふくみ朝顔つるが地べた這い	住田町	紺野ハツミ
みちのくに志功鬼房海鞘の旬	盛岡市	名久井清流	山仰ぎ山ほど生きて母偲び	住田町	紺野ハツミ
南部釜据えられ始む風炉点前	紫波町	三縄美和子	中止したさんさ心の中で聞く	盛岡市	中島雁貝
芽柳の北上川や初む夜市	紫波町	三縄美和子	なんじゃもんじゃ咲いて心を空にする	盛岡市	中島雁貝
盛岡を貫く三川杜若	紫波町	三縄美和子	父の忌に飲む酒苦し曼殊沙華	盛岡市	中島雁貝
文月の三大麺のグルメ旅	大船渡市	岩脇美津江	万緑に戸を開け放ち染物屋	盛岡市	大信田宏子
松林翳りの中のすかし百合	大船渡市	岩脇美津江	釣竿の先の翹やか行々子	盛岡市	大信田宏子
身の丈のコス揺るる住居跡	大船渡市	岩脇美津江	世界中知恵の輪解けぬ春逝けり	大阪府	岩田真弓
幼き日母の指さすおぼろ月	滝沢市	小田島もと	髪切るやハサミの音も夏に入る	大阪府	岩田真弓



花日傘たまたま今日は雨になり	盛岡市	小野むつこ	大晦日打鐘の余韻と発泡酒	盛岡市	賭博カケヒロ
これよりはさすらうごとく探梅へ	盛岡市	小野むつこ	銀玉の溢るるドル箱冬銀河	盛岡市	賭博カケヒロ
チャグの子や半べそかいて梅雨に入る	盛岡市	長野えり子	藍染の「畳」の幟鉦屋町	盛岡市	菊池留美子
かの日から九年なりしか春寒し	盛岡市	長野えり子	月見草揺るる祇陀寺や遠曲輪	盛岡市	菊池留美子
蛸やさんさの腰のたおやかさ	遠野市	谷淵隆朗	ポトル手に大慈清水やミントの香	盛岡市	菊池留美子
鯉は泳がず灯笼木の並び立てる邑	遠野市	谷淵隆朗	はらはらと舞ふミスさんさ紅芙蓉	盛岡市	千葉修子
晩酌のビール手向ける初の盆	遠野市	谷淵隆朗	秋深き山を背にして牛帰る	盛岡市	千葉修子
牧開誘導犬と白い雲	盛岡市	袴田千恵子	狂詩曲終わり小夜曲秋の風	盛岡市	千葉修子
紅の色も違へて秋夕焼	盛岡市	袴田千恵子	啄木の歌碑に手を振り春惜む	盛岡市	吉田葉月
秋桜小さな家を埋め尽くし	盛岡市	袴田千恵子	月明り岩手山脈しんしんと	盛岡市	吉田葉月
台風にこと寄せて聞く子の暮し	埼玉県	北澤雄市	柿すだれ出来たぞ拍手シニアたち	盛岡市	吉田葉月
胸張りて磔刑のごと木守柿	埼玉県	北澤雄市	啄木忌吸はれし心まぶしかり	盛岡市	吉田千代子
母の手や有無を云はせぬかき氷	埼玉県	北澤雄市	攻めりくる腰帯の舞うさんさ連	盛岡市	吉田千代子
高松の水面にはしゃぐ子がもち	盛岡市	吉田義昭	朝顔や杖を忘れし母偲ぶ	盛岡市	吉田千代子
白鳥をともしに見送る岩手山	盛岡市	吉田義昭	髪洗ふ海女に昇りぬ海の月	二戸市	横井萌生
児らとともうなぎを追いし中津川	盛岡市	吉田義昭	夏木立胸誇らかに裸婦の像	二戸市	横井萌生
椀子そば社員旅行や秋高し	一関市	千葉幸彦	杉が屋の煤け自在や岩魚焼く	二戸市	横井萌生
青梅煮となり近所におすそ分け	一関市	千葉幸彦	ペワ湖畔主なき王宮カトレアの花	盛岡市	山田敬次郎
胡瓜漬け夫重しを上げ下げし	一関市	千葉幸彦	白壁は白磁の絵皿柿右衛門	盛岡市	山田敬次郎
片笑窪は手榴弾あと花梯梧	神奈川県	杉江美枝	中津川息吹きのとツブ猫柳	盛岡市	山田敬次郎
原爆忌黙禱をする三世代	神奈川県	杉江美枝	驚向う春夕焼なり明日は晴れ	盛岡市	山田敬次郎
アイスキャンデーテレワークの母の側に	神奈川県	杉江美枝	雷か見上げた夜空遠太鼓	盛岡市	平貴文
稲びかり件を見しと囁かる	栃木県	野乃かさね	雨あがり命の限り黒揚羽	大船渡市	平貴文
長梅雨や鬼の手形の岩しずか	雫石町	雪村	蝉の羽化真珠のごとく輝きて	大船渡市	山山紘
石垣にこだますロック夏の雲	雫石町	雪村	赤とんぼ八十路なりても癒される	大船渡市	山山紘
わんこそば腹もみちたり望の月	雫石町	雪村	黙黙と草取る老いに虫の声	大船渡市	山山紘
漆黒に映すもりおか床緑	花巻市	熊の谷のまさる	ひおうぎの咲きて華やぐ老いの屋戸	大船渡市	山山紘
いちまんの太鼓舞いゆく夏の果	花巻市	熊の谷のまさる	コロナ禍でみる人もなく女郎花	大船渡市	山山紘
石割の枝をもがむと虎落笛	花巻市	熊の谷のまさる	濃緑に河鹿の美声聞き惚れる	宮城県	鈴木恵智代
テレビ越しに聞くファンファーレ手に汗	盛岡市	賭博カケヒロ	萩しだれ風情明媚な毛越寺	宮城県	鈴木恵智代

仰ぎ向く無限の彼方岩手ふじ	宮城	鈴木恵智代	二波の夏コロナの街へ祈るゼロ	北上市	詩星	人
天高し憧れ抱く母の愛	盛岡市	久下千鶴	夏夕べ浮かぶネオンと花薊	北上市	川村庸子	
此の年はどうぞ来ないで魂祭	東京都	菅原和子	滝昇る緋鯉の如く石段トレ	北上市	川村庸子	
写真メールや新涼の父と母	東京都	菅原和子	鬼灯や鳴らす口元親子かな	北上市	川村庸子	
老憊の今を忘れて裸かな	盛岡市	井	夏野球足駄高らか開運橋	北上市	川村庸子	
あの赤は何妻答ふ麦畑	盛岡市	井	短夜やストロベリームーンひと匙で	北上市	川村庸子	
感染国この指とまれ梅雨晴間	盛岡市	井	足場組む多国籍語の炎暑かな	北上市	川村庸子	
爺婆の反省会ぞ夕端居	盛岡市	井	ブラウスの染みひとつ素麺の汁	紫波町	佐藤芳江	
帰省子や魂怯む刹那かな	盛岡市	井	蓮池の花は閉じ鳴る腹の虫	紫波町	佐藤芳江	
山巔の臥薪嘗胆赤とんぼ	盛岡市	井	花籠にアオガエル共に水を浴び	紫波町	佐藤芳江	
マドンナの上昇志向山の藤	花巻市	大平春子	九年の風化かげろふ瘦列島	秋田県	野越三雄	
マニキュアのおおにみどりに春寒し	花巻市	大平春子	盛岡や夏まで唯一無コロナ地	秋田県	野越三雄	
みつまめや友情以上恋未満	花巻市	大平春子	啄木も賢治も岩手やませ吹く	秋田県	野越三雄	
甘酒や愚者も賢者もみな老いて	花巻市	大平春子	バス降りて花が囁く路地にときめく	盛岡市	ハートかずら	
天国への非常階段ねぢれ花	花巻市	大平春子	光る尾根年号明けて風力発電	盛岡市	ハートかずら	
ひとりつ子を羨む幼さくらんぼ	花巻市	大平春子	アゲハ蝶庭の老木もさざめきて	盛岡市	ハートかずら	
山百合やジャンヌ・ダルクの旗のごと	花巻市	大平春子	夏太鼓五臓六腑に沁みわたり	盛岡市	長江知子	
街角に関所のごとし赤い羽根	花巻市	大平春子	馬の背や童女まどろむ青田風	盛岡市	長江知子	
ブロッコリーへ秋波を送るポパイかな	花巻市	大平春子	紅牡丹ためらわずして散りにけり	盛岡市	長江知子	
五言律詩七言律詩吊し柿	花巻市	大平春子	皮撓むさんさ太鼓の鳴らぬ夏	盛岡市	くどうひろみ	
登山道真つ正面は鬼ヶ城	奥州市	鈴木勝子	初袷せ紫紺染めには祖母のしみ	盛岡市	くどうひろみ	
七月や雨はしとどに子に手紙	奥州市	鈴木勝子	木下闇チワワ一匹さけて行く	盛岡市	くどうひろみ	
新盆に帰つて来るなど手紙かな	奥州市	鈴木勝子	麦秋や心のそわぬ家人あり	盛岡市	くどうひろみ	
開運橋渡れば捜す夏の山	北上市	鉄本正人	天高く鬼籍入る師の笑う声	盛岡市	くどうひろみ	
にはか雨急に合唱雨蛙	北上市	鉄本正人	不燃ゴミむくげの角のその先へ	盛岡市	くどうひろみ	
猫も耳傾けてゐる法師蟬	北上市	鉄本正人	赤とんぼやっぱり盛岡にとまる	紫波町	鷹觜閑雄	
サッカーボールのせてベンチの夏終る	北上市	片方みち子	秋まつり神にいちばん近くなる	紫波町	鷹觜閑雄	
水音と夏木に開くお弁当	北上市	片方みち子	盛岡の風流山車で好きと言う	紫波町	鷹觜閑雄	
傾ける日傘に美しき鎖骨かな	北上市	片方みち子	かげろふのゆらり野の花美術館	久慈市	柳幸ヨミ	
幸呼来と蝶の手は舞う夢まつり	北上市	詩星	サングラス胸に御山を仰ぎけり	久慈市	柳幸ヨミ	

並び立つ九基の風車鮭のぼる 盛岡市 佐藤ひこあき 帳尻の合はぬ帳簿やねぢれ花  
 漕ぐ足の白鳥ボート梅雨晴間 盛岡市 佐藤ひこあき 目を描かぬ人形とある夜寒かな  
 薄日さす十六羅漢濃紫陽花 盛岡市 佐藤ひこあき 暑氣払いさんさ踊りの輪の中で  
 垂直の孤高真白き立葵 盛岡市 伊藤恵美 岩鷲山チャグチャグ馬この山開き  
 フアの音の半音上がり白雨かな 盛岡市 伊藤恵美 寝ころびて城の風吸ふ啄木鳥や  
 光増すペテルギウスや雪の果 盛岡市 伊藤恵美 下萌える皇居ランナー水補給  
 囚鮎旗立つ街の静まりぬ 盛岡市 南その子 スナップ写真新婦のヴェールに風光る  
 青田波色とりどりのランドセル 盛岡市 南その子 岩鷲山 田植の後の水鏡  
 夏深し酒買地蔵ある小道 盛岡市 南その子 三ツ石の鬼の手形や雲の峰  
 寺町に鬼の手形やさんさ舞う 花巻市 富手孝子 荒梅雨や毘沙門清水のから井戸も  
 馬つこに晴着まぶしや五月晴れ 花巻市 富手孝子 すり傷は赤チンが好き日焼の子  
 荒わしの姿あらわし初田植 花巻市 富手孝子 世の体勢は石割桜の如く  
 涼風が「さんさこみち」へ誘うなり 一戸町 柴田のぞみ 眼を細め姉とやりとり唐辛子  
 仕事終えほっと一息夏菜園 一戸町 柴田のぞみ 地区行事あふれし瓶の蝗かな  
 立秋や崖の工事の赤信号 一戸町 柴田のぞみ 白牡丹帯解くごとく散りにけり  
 木下闇仕掛けておきました盛岡 盛岡市 村上あかね あぢさゝみや心の四阿に憩ふ  
 脱藩の木枯し届く南部領 盛岡市 村上あかね 一本の抜け毛もいのち髪洗ふ  
 朝市に南部訛のトマトかな 盛岡市 村上あかね 産卵後の鮭夕暮れの中津川  
 岩山に駆け登ったよ夏の空 盛岡市 茂 三月や子らに持たせる「夜と霧」  
 戦場や夕顔瀬橋語り継ぐ 盛岡市 茂 一号車見慣れぬ顔のある四月  
 橋で見た鮭の回帰に頑張れよ!! 盛岡市 茂 丁重に盆花抱え来る友よ  
 雄叫びや石割る命桜咲く 盛岡市 茂 宿題のカレー作りや夏休み  
 岩手山鷲が飛び来る春の雨 盛岡市 茂 青嵐近し又三郎と接近す  
 椀重ねまだまだ勝負夏の汗 盛岡市 茂 遠き春縁側の主は母とサライ  
 鉄風鈴愛しき人の遺品分け 盛岡市 中村紀子 冬銀河りゅう星群と豆大福  
 万緑やどの草木にもある名前 盛岡市 中村紀子 GOTOに疫ゼロ県も遂に終ひ  
 夏の空猫といっしょに大欠伸 北上市 薫 紫根浴衣そぞろ行きたる中津川  
 ダダスコタン!手踊り楽しさんささんさ 北上市 薫 紫根浴衣の僅かに秘色星月夜  
 石割れて三百年もの桜さき 北上市 薫 白髪の僅かに秘色星月夜  
 中津川夫婦鮭らが登りゆく 北上市 薫 龍神の月白の腹天高し



石割りの桜を觀たしコロナの禍	東京	若月千鶴子	路地曲る姿を変えて山笑ふ	盛岡市	樹神夕月
顔のある人間は酷おみなへし	一関市	滝田耕	閑なれど荒るる庭戻り帰る梅雨	盛岡市	樹神夕月
海青くくらのげの濃度感じをり	一関市	滝田耕	王冠を滅却し賜れ炎帝神農	盛岡市	樹神夕月
夕立や壁蝨の作りしチーズ噛む	一関市	滝田耕	帰れぬ子あり広すぎの夏座敷	花巻市	小原史子
餌を食わぬすっぽんと居て夜の秋	一関市	滝田耕	青空に蓮わたくしも透きとほる	花巻市	小原史子
真っ白のトボス開いて水中花	一関市	滝田耕	ユーミンの歌にモリオカ風薫る	花巻市	小原史子
草刈機止めて微笑おひばりの巢	花巻市	八方の頂	輩進む庭のつばきが吾をわらう	福島県	淳
U字溝流れよくなり蛩去る	花巻市	八方の頂	冬枯や沼に一羽の泳跡波	福島県	淳
汗流れ草取りの手に実り知る	花巻市	八方の頂	涼し朝雪景色見ゆ夏の夢	福島県	淳
川多き県都かなかな競演す	盛岡市	石澤利男	ねがいごと舞い狂わせて笹竹撓う	盛岡市	高橋訓子
水郷の初秋を巡りわんこそば	盛岡市	石澤利男	もじずりの螺旋に突いてほしい空	盛岡市	高橋訓子
混濁の空気の満ちる梅雨の街	盛岡市	石澤利男	緑蔭の詩人しずか山仰ぐ	盛岡市	高橋訓子
筆庄の好漢幾多敗戦忌	盛岡市	石澤利男	雪あかり君に出逢いし夜のこと	盛岡市	鈴木孝子
盆休み爺婆に合ふなどおふれ	盛岡市	石澤利男	明日嫁ぐ三姉妹寄る花の蔭	盛岡市	鈴木孝子
鬼ヤンマ瞬時に過ぎる面構え	滝沢市	高橋千衣子	天はるかモリオカシダレ見えますか	盛岡市	鈴木孝子
朝露のひと粒ずつに白い月	滝沢市	高橋千衣子	もりおかの字や深呼吸の風薫る	一関市	フジ
早池峰の木の実葉上に落ちる音	滝沢市	高橋千衣子	夏の夕でんでんおむしというバスで	一関市	フジ
擬宝珠見て鼻曲り鮭里帰り	盛岡市	江原隆幸	スカートに風緑蔭の啄木碑	一関市	フジ
チャグチャグと馬コが揺れ孫もゆれ	盛岡市	江原隆幸	北窓開く盛岡といふ出逢ひ	大阪府	岩田真弓
夜爪切り祖母に諭され半夏生	盛岡市	江原隆幸	土砂降り宵白芙蓉明るみて	大阪府	岩田真弓
風鈴や材木町の路地に入る	奥州市	鎌倉道彦	しばらくは花火の匂う星空や	盛岡市	三浦百合子
啄木の文字あり新緑の日戸	奥州市	鎌倉道彦	蛇泳ぐ源氏ゆかりの五郎沼	盛岡市	三浦百合子
採石場に賢治の影か夏の雲	奥州市	鎌倉道彦	夏霞地に光るものなびくもの	盛岡市	三浦百合子
抽出しの従軍記章大西日	奥州市	鎌倉道彦	夕虹やびしゃもん橋と中の橋	盛岡市	三浦百合子
八月や墨塗りの教科書開く	奥州市	鎌倉道彦	紅の天女をひとつ梅漬ける	奥州市	佐々木雅子
三人のこえがきこえる胡蝶蘭	花巻市	菊池俊彦	夏の月カーブミラーは別世界	奥州市	佐々木雅子
コロナには一歩もすすめぬさんさかな	花巻市	菊池俊彦	地虫鳴く暗渠閑東ローム層	奥州市	佐々木雅子
炎天に世紀をかたる人おりて	花巻市	菊池俊彦	指文字やゆらりとゆれる春日和	埼玉県	白根萌花
生きるとやコロナも人も風の中	紫波町	熊谷岳朗	笑う泣き思い出の虹ろう学校	埼玉県	藤原希乃
父母の訛りや城の静けさよ	紫波町	熊谷岳朗	全日本聞こえない者手語筍	埼玉県	小沢陸翔

春らしくろう学校の庭の中	我々の手話は命や芝桜	男のかわいさ目を見てる秋時雨	みそ汁に手話をこぼした山眠む	秋の虹手話で話そう空の下	恋人の手話物語アマリリス	運動のろう学校の夏休み	チャグチャグの中止の道を草を刈る	来年のチャグチャグの子馬に授乳	鉄瓶の白湯をどうぞ鮭のぼる	よいかまりネムノ木花の贈りもの	わが家には銀座の柳夏そよく	孫の丈筍みたい祖父母笑む	照り翳る沼辺にひそと青蛙	あぶらぜみ啼きて炎暑の一日かな	宵やみの沼面照して螢とぶ	樂しみや先送りする二重の禍	仲夏の晴天みごと南部富士	夏敗や治る暇なしこの暑さ	中津川橋から覗く鮭の影	チャグチャグと揺れる馬の背を夏の風	雨傘をかざし手塩の白牡丹	朝顔の覗きこんでる飼葉桶	棒立ちの尺取虫の骨休み	十ミリのかまきりの子の威嚇かな	賢治への手紙を綴る秋の蚊帳	夕晴れやよ市の客の秋扇	水郷の寺町通り蚯蚓鳴く	春隣映画祭待つ通りかな	片蔭の病棟葬車見送りて
埼玉	埼玉	埼玉	埼玉	埼玉	埼玉	埼玉	奥州	奥州	遠野	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	奥州	奥州	北上市	北上市	北上市	花巻市	花巻市
明石	伏島	稲葉	松田	佐々木	徳永	金子	青沼	青沼	夏谷	及川	及川	及川	槻山	槻山	槻山	中村	中村	中村	高橋	高橋	高橋	奥村	奥村	中村	小林	小林	小林	小原	小原
優希	愛美	汐音	星音	木彩乃	小雪	亮太	利秋	利秋	胡桃	慙哉	慙哉	慙哉	チエ	チエ	チエ	孝之	孝之	孝之	海馬	海馬	海馬	セイ子	セイ子	セイ子	史枝	史枝	史枝	青白	青白
合飲の葉や死亡診断書を封ず	岩手嶺と四つに組み合ふ雲の峰	蛮からの応援団の夏の果	歩道にも鉄風鈴のおもてなし	上の橋より人々の目の先鮭の遡上	紫陽花に心を決める七回忌	新緑路愛車に遺る陽水を聴く	青梅落つみづから逝きし吾子が庭	吾子の齒は灰となりぬや万緑に	草刈人去りし道べのねじりばな	夜景遺産ライトアップのめがね橋	朝摘みの茄子を片手に姉笑顔	嬰兒のカマキリ網戸に雨上がる	雪解光海へ万里の稚魚の旅	野葡萄はクレオパトラの首飾	帰省子の父と乗り組むサツパ船	もてなしは南部の富士と桐の花	ごろごろと干草ロール牛の声	ゲートルをほどく十五の終戦日	啄木の帰郷待ちわぶ蟬時雨	一山の夢ゆるるぎなし燕子花	さんさ笛これが最後と古稀の夏	凍る路地集中一点足の指	山開き涌く水喉に直下小屋	夏花摘み紫色が黄になりて	八月は皆祈る月心清し	捨てた子に届け郭公夕迫る	鮭遡上力尽きたる中津川	鮭の稚魚帰ってきてねと放つ春	なつかしの改札母の白い息
花巻市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	北上市	北上市	北上市	遠野市	遠野市	遠野市	宮古市	宮古市	宮古市	石町	石町	石町	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市
小原	伊藤	伊藤	伊藤	佐々木	佐々木	佐々木	酒井	酒井	酒井	唯是	唯是	唯是	さいとう	さいとう	さいとう	黒沢	黒沢	黒沢	下河原	下河原	下河原	佐藤	佐藤	佐藤	中山	中山	中山	加藤	加藤
青白	文明	文明	文明	牧子	牧子	牧子	静	静	静	栄子	栄子	栄子	白沙	白沙	白沙	泉	泉	泉	正泉	正泉	正泉	進	進	進	美子	美子	美子	潤子	潤子







啄木の教場脇の病葉よ	一	関	市	佐野	容子	どくだみがコロナにきけよと繁茂する	盛	岡	市	雫石	ト	シ
姫神やサンサ踊りの音もなく	盛	岡	市	松尾	清己	ふるさとが感染〇と虹の橋	盛	岡	市	雫石	ト	シ
初鮎や一口ごとにほろにがし	盛	岡	市	松尾	清己	栗の花毬だま宿して秋を待つ	盛	岡	市	雫石	ト	シ
夜遅しさんさ踊りの音も無くて	盛	岡	市	田村	依江	墓洗うコロナ禍に子孫思いつつ	葛	卷	町	高家	卓	範
エアコンの部屋に集まりニュース観る	盛	岡	市	田村	依江	遠雷や農人の性あと少し	葛	卷	町	高家	卓	範
高気温家族揃った台所	盛	岡	市	田村	依江	産土はこの花が好し立葵	葛	卷	町	高家	卓	範
桜待つ隔離病舎の瑠璃小窓	花	卷	市	佐々木	凡空	なはんでふ盛岡ことば夕端居	葛	卷	町	高家	卓	範
羚羊の塩舐めんとして崖下る	花	卷	市	佐々木	凡空	撫でベコの伝えの川や鮭上る	葛	卷	町	高家	卓	範
巢燕の落下や鴉啞へ去る	花	卷	市	佐々木	凡空	廃校に残る板書や盆帰省	葛	卷	町	高家	卓	範
汗の足びったり合わせ婆と孫	陸前高田市	坂下	睦美	季外れとなりしマスクの端居かな	滝沢	滝沢	滝沢	市	坂本	本	守	守
うろうろと親すずめ道中のむくろ	陸前高田市	坂下	睦美	知る顔も顎にマスクの夕涼み	滝沢	滝沢	滝沢	市	坂本	本	守	守
梅花藻に变りてみだし夏の川	北上市	高橋	トメ	不来方の君のばんから蝉しぐれ	紫波	紫波	紫波	町	四日市	洋	子	子
絵日傘を差しゆく老いの気品かな	北上市	高橋	トメ	冷奴まめまめしきや鉈屋町	紫波	紫波	紫波	町	四日市	洋	子	子
夏の霧刻々登る岩手富士	北上市	高橋	トメ	言霊の絶ゆることなく原爆忌	奥州	奥州	奥州	市	高橋	橋	瞳	瞳
ふるさととは三ツ石膝に寝る子猫	一	関	市	うるうるとしなりちいさき飛蝗跳ぶ	奥州	奥州	奥州	市	高橋	橋	瞳	瞳
欄杆を渡る訳あり蝸牛	一	関	市	牛飼いを終えてふたりの文月かな	奥州	奥州	奥州	市	高橋	橋	瞳	瞳
葦の花妣の助言のさりげなく	一	関	市	白衣脱ぎさんさを踊る人に汗	奥州	奥州	奥州	市	高橋	橋	瞳	瞳
ふるさとの薫り忘れじ鼻曲がり	花	卷	市	いぬふぐりです星たちの幼稚舎です	奥州	奥州	奥州	市	高橋	橋	瞳	瞳
天の川メロンソーダへとくとくと	花	卷	市	如月のひかりであそぶ嬰兒かな	奥州	奥州	奥州	市	高橋	橋	瞳	瞳
桔梗風船ぼんとほころぶ祖母掌に	花	卷	市	石割の何時かながめる花衣	奥州	奥州	奥州	市	高橋	橋	瞳	瞳
病葉に触れて心の壊れけり	一	関	市	初茄子や棘のするどき指をなめ	奥州	奥州	奥州	市	高橋	橋	瞳	瞳
星月夜狸横切る庭の先	一	関	市	アサガオの色あざやかな軒先か	奥州	奥州	奥州	市	高橋	橋	瞳	瞳
紫陽花や誰かがそこに居た気配	岩手	手	町	あの人の姿を探す卒業式	奥州	奥州	奥州	市	高橋	橋	瞳	瞳
寒鰯に人肌の酒猫の通夜	岩手	手	町	雛飾る祖母の瞳のぬくもりや	奥州	奥州	奥州	市	高橋	橋	瞳	瞳
納豆の糸切りながら聞く説教	紫波	波	町	切りすぎし前髪浮かび梅雨入かな	奥州	奥州	奥州	市	高橋	橋	瞳	瞳
キーボードしたしたと打つ梅雨かな	紫波	波	町	朝焼やパン屋を覗く鳩一羽	奥州	奥州	奥州	市	高橋	橋	瞳	瞳
白シャツの自転車に追い越されて風	紫波	波	町	どこまでも鳥になりたし凌霄花	奥州	奥州	奥州	市	高橋	橋	瞳	瞳
いが栗の春の卵の花誰ぞしる	盛岡	市	雫石	遠花火空と心の闇に咲く	盛岡	盛岡	盛岡	市	大志田	俊	哉	哉
リモートのさんさの声もまた楽し	盛岡	市	雫石	無機質な動き下から扇風機	盛岡	盛岡	盛岡	市	大志田	俊	哉	哉
蛍のひ源氏か平家か我蝦夷の民	盛岡	市	雫石	ゲリラ雨知らないリズムカーラジオ	盛岡	盛岡	盛岡	市	大志田	俊	哉	哉

保護色の鳥対岸の残雪 盛岡市大志田俊哉 一壺をば干さぬに独居明けそめし  
 風鈴の音こだまする城下町 盛岡市西川山音 帽を脱ぎ荒らぶ寒風に向かい立つ  
 擬宝珠の橋わたるとき風涼し 盛岡市西川山音 会議果て帰路はダイヤモンドダンス舞う  
 格子戸をあければ奥から風鈴の音 盛岡市西川山音 いくとせや苔の鎮もる城の跡  
 築城の鑿跡残る鮎の岩 盛岡市村木軍六 つくつくし肺活量の単位かな  
 宰相の別邸跡も驟雨あと 盛岡市村木軍六 向日葵を見る時の項の角度  
 寂聴の寺まで靡け稲穂波 盛岡市柳木幸六 岩を割き猛き生命の石割桜  
 朝顔やそこが津波の来た高さ 盛岡市柳幸子 アテルイ誓いし夏の清水寺  
 青時雨大山祇の祠坐す 盛岡市柳幸子 三代の桃源の夢夏過ぎし  
 三ツ石の鬼の手形や大揚羽 盛岡市水野紹夫 活鱒に待ちきれず父グラス干し  
 雷神が大暴れして濃紫陽花 盛岡市水野紹夫 夕立のへりから逃げし藍浴衣  
 母の香や眠りは深し蚊張の中 盛岡市水野紹夫 熱帯夜音階つくる親子犬  
 雨しとど雨宿りしている茗荷の子 盛岡市滝本利雄 祭音は目を閉じた君に聞こえて  
 現し世や醒め咲きある古代蓮 盛岡市滝本利雄 長くつの穴に気がつく夏豪雨  
 世界地図展げ久しや夏座敷 盛岡市滝本利雄 盆支度母の煮染めはくるみ味  
 孫背負い桜仰ぎてねんねこね 盛岡市琉希京 夏寒しテレビ電話の故郷かな  
 散る桜ちぎり絵と化け道に咲く 盛岡市琉希京 初勤務まとうスクラブ若葉色  
 春雷に君を重ねし苦笑い 盛岡市琉希京 カウル片ガードレールの百合白き  
 風呼べり蝸の声拭く湯肌 盛岡市佐々木康雄 炎昼や団欒ごしに遺影の君  
 白一線あじさい青の空を縫い 盛岡市佐々木康雄 厳寒の焼肉パーティー網走湖  
 舞い上がるてふてふいちゃいちゃ白黄色 盛岡市佐々木康雄 耳鳴りかかなかな森の深きより  
 夏空やギョッと綿雲綿の菓子 盛岡市佐々木康雄 広島忌胎内被曝者のことば  
 綻びし衣裳尽くして夏の蝶 盛岡市佐々木康雄 放牛の室根山中夏の雨  
 枝豆や次々と殻大ジョッキ 盛岡市佐々木康雄 夏の日の午後のやすらぎ今昔  
 赤西瓜旬一瞬に喰ひにけり 盛岡市佐々木康雄 夏の海よみがえる日日寄せる波  
 ふと止めりコオロギの声本閉じぬ 盛岡市佐々木康雄 夏の浜波がさらえし我が想い  
 命鮭尾鰭巧みに石を蹴り 盛岡市佐々木康雄 夏の海砂に吸われし恋ごころ  
 音溢す干場ポツンと雨風鈴 盛岡市佐々木康雄 しんしんとしんしん深と雪の夜  
 隙間雪畳そろりと蒲団出る 盛岡市佐々木康雄 夏の午後まどろむせつな蝉の声  
 空滑るステップはプロ水澄 盛岡市佐々木康雄 さんさ踊り飛び入り火蛾も囃し舞ふ

母の耳朶触れて寝つく子ねぶの花	産土を抱きて帰燕はるかなり	しろがねの水重ね合ふ銀河かな	そば百椀重ね給仕の声さやか	星合やアクリル板越しのお酒	風鈴やもつきりの光のあふれ	海鳴りを数え十年か春の雪	流鏑馬過ぎ行き一切は萩の群れ	駅出でて川の香のぼる夏の雲	かなかなや入江の多き海岸線	リモートに見るふるさとの天の川	ゆるゆると母と歩みし盆の道	睡蓮や鯉と戯れ花二つ	冷奴天然水でお振舞い	緑雨止みより高々に岩手山	かたつむり日常の澱み現れる	藍浴衣着てそばいなり買いにゆく	のら猫とたわむれるのも日傘さし	転勤にて知らぬ土地でも岩手山	いざ行かん残雪の山に背を押され	星冨ゆるあの人は未だ開運橋	友の如く選ぶカワトク冬帽子	一時の白き花芯よ木引草	唐突の海の車内で青リンゴ	科学部の子等騒ぎ撈ぐ初茄子	岩手山入道雲と甥帰省	蝉静か隣の灯籠木夕を待つ	抱っこ請う子の手やシドケ摘まむべし	初帰省じゃじゃ麵ホヤ酢福田パン	鮭還る橋まで響く尾のしぶき	
秋田県須田亜希子	秋田県須田亜希子	秋田県須田亜希子	東京都高橋寅次	東京都高橋寅次	東京都高橋寅次	宮城県都南萌生	宮城県都南萌生	宮城県都南萌生	東京都水越文子	東京都水越文子	東京都水越文子	盛岡市太田屋ヨシ子	盛岡市太田屋ヨシ子	盛岡市太田屋ヨシ子	盛岡市二藍	盛岡市二藍	盛岡市藤るる子	盛岡市藤るる子	盛岡市藤るる子	盛岡市藤るる子	遠野市松田和子	遠野市松田和子	遠野市松田和子	北上市川村庸子	北上市川村庸子	北上市川村庸子	遠野市蔵ゆ	遠野市蔵ゆ	遠野市蔵ゆ	矢巾町岡崎郁子
公会堂幼き冬のオペレッタ	街路樹はとちの木県庁通り	梅雨じめりお日様のにおい四百円	初鮭を見守るじじと与の字橋	墓参り故郷過ぎて雲の峰かな	初孫の泣き声眩し不來方の夏空	窓越しに紫陽花揺れて娘想う	万緑や親王塚へ磴高し	花々の名札の残り野菊咲く	盆梅や夫にカステラ厚く切り	コロナ禍に夢となりたる夏まつり	「炎帝」の句のある佛間風涼し	待ち合はす「石割桜」花は葉に	秋立つや樹々も駄舎も濡れて艶	襟に心重ねて母 惚ぶ	コビット19さんさ呑み込む太鼓ごと	わたアメにおさな子えがお月をみる	三鉄の洞門ぬけて紅葉舞う	残り雪踏みしめ児らの晴れ姿	南部富士初冠雪や秋深し	啄木も愛でし城跡紅葉映え	上の橋遡上の鮭に人盛り	連結器ドドンと肚に夏始発	潮焼の声顔訛り初秋刀魚	映画館通り君まち時雨今瑠璃に	鮭放っ片手年秋里帰り	中津川銀河うっしや鮭還る	石桜咲きて誇らか三百年余			
花巻市accida	花巻市accida	北上市田村かずき	北上市田村かずき	盛岡市室岡積雲	盛岡市室岡積雲	盛岡市室岡積雲	神奈川県朝倉順子	神奈川県朝倉順子	神奈川県朝倉順子	北上市伊藤順子	北上市伊藤順子	北上市伊藤順子	富山県富山の露玉	富山県富山の露玉	奥州市小野コヨ	奥州市小野コヨ	奥州市小野コヨ	盛岡市佐藤義治	盛岡市佐藤義治	盛岡市佐藤義治	盛岡市老馬	盛岡市老馬	盛岡市老馬	奥州市七色しぐれ	奥州市七色しぐれ	奥州市七色しぐれ	盛岡市齋藤榮蔵	盛岡市齋藤榮蔵	盛岡市齋藤榮蔵	



ジュニアの部

盛岡国際俳句大会賞  
白濱一羊 選

素振りして雪の白さに土一点 盛岡市 田澤孝丸

文京区長賞  
工藤玲音 選

運動会午後の始めに太鼓響く 盛岡市 及川さつき

ジュニアの部

入選

白濱一羊 選

打ち水やにおいただようアスファルト

盛岡市

佐々木優羽

足触れるこたつの中の丸い猫

盛岡市

富川 遙

涼風に吹かれし髪は一人ぼっち

盛岡市

三好希帆

扇風機立ち往生で独り占め

葛巻町

下天戸楓

ランドセルせおえばぼくもカブトムシ

盛岡市

星川 明

入選

工藤玲音 選

梅雨空を明るくしようチャグチャグと

盛岡市

宮崎叶実

ランドセルせおえばぼくもカブトムシ

盛岡市

星川 明

ひろいそらにゆうどうぐもがコックさん

盛岡市

保科華歩

天道虫ころころ空へ飛んでゆく

青森県

寺沢一真

桜の実毎日手話で話しけり

埼玉県

片山仁一朗



# ジュニアの部 投句作品

だんごむしひろってママをおいかける	盛岡市	竹原詩葉	梅の花全部ちってさみしいな	盛岡市	熊谷斗真
もくもくのはなびのけむりでにんじやだぞ	盛岡市	竹原詩葉	こなゆきがパラパラとまいおちる	盛岡市	倉本心温
おひさまがはいろくもをけしていく	盛岡市	竹原詩葉	冬休み雪合戦で勝負だ	盛岡市	倉本心温
やってくるコロナのきんがすぐそこに	盛岡市	及川悠貴	夏の夜カブト虫たち見つけたぞ	盛岡市	斉藤啓斗
夏休みのしいことがいっぱいだ	盛岡市	及川悠貴	ミシミシとセミたちないてうるさいな	盛岡市	斉藤啓斗
マスクをしコロナよぼうをたいせつに	盛岡市	及川悠貴	チューリップ風といっしょにおどってる	盛岡市	佐々木結衣
盛岡の風と空気はきもちいな	盛岡市	金澤遥人	ちらちらとまいゆくさくらうつくしい	盛岡市	佐々木結衣
盛岡をアマビエ様がガードする	盛岡市	金澤遥人	地面鳴るおちばが落ちて風にのり	盛岡市	佐藤寿樹
盛岡のいろんな人がたすけあう	盛岡市	金澤遥人	雪がふり頭におちる間をあけず	盛岡市	佐藤寿樹
森ぬけて見つけた滝の虹のはし	盛岡市	伊藤かな	春がきて花が満開きれいだな	盛岡市	佐藤美優羽
みなづきでころもがえするおやこかな	盛岡市	伊藤かな	あの夜はきれいだった満開の桜	盛岡市	澁谷空護
そらたかくきれいなびくこいのぼり	盛岡市	伊藤かな	桜の木まう花びらがきれいだな	盛岡市	高田結衣
雨の日はしつけが強いよあついな	盛岡市	伊藤かな	あそんでたあめでびつしよりおこられた	盛岡市	高柳虎太郎
夏祭り祭りの服はゆかたかな	盛岡市	海老名春妃	冬だからいっぱいふった雪よゆき	盛岡市	高柳虎太郎
白い砂すきとおる海なみの音	盛岡市	遠藤海空	夏のおわりヒマワリたちがゆれている	盛岡市	千葉結衣
夏の夜光るほたるはゆめを見る	盛岡市	遠藤海空	ハウセンカはじけたたびにさわぎだす	盛岡市	千葉結衣
楽しみだ春がそろそろやってきた	盛岡市	大江結太	桜の木春に咲く花きれいだな	盛岡市	畠山愛華
桜の木夏になったら緑色	盛岡市	大江結太	夏休み海で遊んで楽しいな	盛岡市	畠山愛華
せみがなく森の中でいい声で	盛岡市	大原彩香	カブト虫えさをもとめてとんでいく	盛岡市	東山玄治
せみがなくオーケストラが森の中	盛岡市	大原彩香	あたたかな雨がふっても遊んでる	盛岡市	東山玄治
いも植える家族みんなで畑にて	盛岡市	久保田葵	開催だ雪がちらちら誕生会	盛岡市	藤原凜人
花びらがきれいにさいたさくらだな	盛岡市	久保田葵	埼玉でかにを食べたら年越しだ	盛岡市	藤原凜人
	盛岡市	久保田葵	夏休み勉強するよ友達と	盛岡市	細川泰誠
	盛岡市	久保田葵	夏だからセミがミンミン鳴いている	盛岡市	細川泰誠
	盛岡市	久保田葵	夜のコンビニにカナブン飛んでたよ	盛岡市	武蔵一生

夏休み波がよんでる海の声	盛岡市	伊藤美結	真夏の日せみがミンミンうるさいな	盛岡市	原田汎己
八月は太陽きたよこんにちは	盛岡市	伊藤美結	真夏の日服がくつつく汗をかく	盛岡市	原田汎己
泣きつづきついには大泣き大変だ	盛岡市	大下瑠夏	風呂上がり庭に出てると虫の歌	盛岡市	藤田琉生
遊んでておもちゃを不思議に思う犬	盛岡市	大下瑠夏	盛岡はおいしい物がいっぱいだ	盛岡市	藤田琉生
そよ風とせみの鳴き声夏がきた	盛岡市	大山莉桜	夏祭り家族みんなでかき氷	盛岡市	八尾柚葵
春終わり夏とこうたい虫の声	盛岡市	大山莉桜	扇風機暑い夏にびったりだ	盛岡市	八尾柚葵
暑い中念願一発優勝だ	盛岡市	岡本諭行	さびしいなさんさ祭りがいい夏は	盛岡市	山崎楽
ピクニック菜の花見ながらしたかった	盛岡市	岡本諭行	楽しみだ来年の夏の夏祭り	盛岡市	山崎楽
夏まつり花火がきれいカラフルだ	盛岡市	小山田奈優	盛岡のさんさだいいこは楽しいな	盛岡市	横須賀咲姫
夏まつりゆかたかわいく楽しみだ	盛岡市	小山田奈優	夏になりジリリとせみが鳴いている	盛岡市	横須賀咲姫
学校でハードルやって汗をかく	盛岡市	上山愛聖	夏休み勉強すぐに終わらせる	盛岡市	吉田翔和
暑い夏プールに早く入りたい	盛岡市	上山愛聖	夏休みキャンプに行つて釣りをする	盛岡市	吉田翔和
お祭りはほとんどなしにつまらない	盛岡市	熊谷颯真	ふきのとう三つそろって頭出す	奥州市	菊地康生
夏休み虫取りをして楽しいな	盛岡市	熊谷颯真	うらめしく外を眺める梅雨の昼	奥州市	菊地康生
夏になりプールに入る楽しみだ	盛岡市	杉田健	清明の制服姿輝ける	奥州市	松橋采音
魚釣り夏の楽しみ待ちきれぬ	盛岡市	鷹木悠羽	天の川空を流れる星の河	奥州市	松橋采音
夏休み家族みんな楽しんでもう	盛岡市	鷹木悠羽	風物詩桜とともに新入生	奥州市	及川悠希
夏の空セミがミンミン鳴いている	盛岡市	滝野陽太	鳴き初めて蝉が立夏をつれてくる	奥州市	及川悠希
盛岡はさんさおどりがすごいよね	盛岡市	滝野陽太	みな笑顔真夏に花火打ちあがる	奥州市	及川友希
夏休み自分の役目やりきった	盛岡市	玉山風芽	朝起きて雪と思えば雨水かな	奥州市	及川友希
梅雨の時期雨が降らずにサッカーだ	盛岡市	玉山風芽	パンにかビ祖父も汗かく大暑かな	奥州市	新田輝
猛暑の日温暖化でね増えてきた	盛岡市	千葉彩華	春風に桜舞い散り遊ぶ猫	奥州市	新田輝
進んでるみんなのせいで温暖化	盛岡市	千葉彩華	打ちあがる花火が夜空広がるよ	奥州市	高橋琉偉
ポイ捨てをやらないことを心がけ	盛岡市	橋尻唯一心	天ぶらの苦みがうれしふきのとう	奥州市	高橋琉偉
盛岡の環境守る草取りで	盛岡市	橋尻唯一心	苗植えてマルチの上に水光る	奥州市	藤澤昂平

音が聞いて火の玉上がり花火咲く	音聞	盛岡市	奥隅彩香	水遊び日焼けの跡がくつきりと	盛岡市	柳澤庵
手の中にそばに止まった赤蜻蛉	盛岡市	猪川絢香	五月雨の音を聞きつつ夢の中	盛岡市	三浦諒也	
雪解けて下から顔出すふきのとう	盛岡市	渡會竣也	夕暮れに焼けても涼む風鈴かな	盛岡市	細谷尚璃	
焦る僕いつ収穫や夏野菜	盛岡市	山下裕也	紅葉の葉水面落ちて揺らぐなり	盛岡市	藤原昊生	
霧残る玄関の外は雲の中	盛岡市	畠山讓	紅葉の葉水面落ちて揺らぐなり	盛岡市	畠山泰知	
昨日とは違う世界の雪景色	盛岡市	萩原正風	僕の恋桜のように花開く	盛岡市	野又日翔	
秋晴れを見てたら水がもう凍る	盛岡市	千葉隆清	秋の夜天の川見た幼き日	盛岡市	長濱谷泰誠	
紅葉の道を踏めばかおる秋	盛岡市	千葉周作	校庭に映る鳥影燕かな	盛岡市	澤田颯	
登校中やさしくかおる春の風	盛岡市	玉山氷龍	通学路春雨の音や花の香り	盛岡市	佐藤遼河	
秋の夜虫の音色がきれいだね	盛岡市	砂森大輝	夕焼けの努力の証眼鏡焼け	盛岡市	佐々木陸翔	
春風がうたた寝誘う昼下がり	盛岡市	佐藤悠	赤蜻蛉秋のおとずれ感じけり	盛岡市	櫻小路遥稀	
初紅葉バトン受け継ぎ代替わり	盛岡市	櫻川希海	秋分に走れば感じる肌寒さ	盛岡市	小川修司	
七夕に叶わぬ願い流星へ	盛岡市	近藤歩畝	夕焼けは淡く実る愛言葉	盛岡市	小笠原隼平	
木枯らしや季節の変化つげる風	盛岡市	小島望天	浮き心音となりけり除夜の鐘	盛岡市	浦内真人	
一月になって気づき年惜しむ	盛岡市	栗谷川温斗	しずまる夜楽しき花火終わりけり	盛岡市	見澤愛	
人に雪見る間もなく解け去って	盛岡市	草皆響	秋風や生き物ともになく日かな	盛岡市	廣内凜	
冬になりあたり一面銀世界	盛岡市	川目蒼大	嬉し顔母の日あげるプレゼント	盛岡市	瀬川琴佳	
雨上がり空見上げれば虹の下	盛岡市	遅澤優成	息しずめ感じる風とせみの声	盛岡市	鈴木佑依	
花落ちて秋を感じる季節かな	盛岡市	高橋芽央	夕焼けの赤にとけこむさびしさよ	盛岡市	白澤咲幸	
くらやみの田んぼの上にほたるとぶ	奥州市	高橋芽央	赤と黄の悠々およぐ秋の道	盛岡市	佐藤はるな	
新緑の景色になじみ新幹線	奥州市	佐藤匠真	春便り富士山の真似岩手山	盛岡市	小林琉花	
床で大きくかえるの声のコンサート	奥州市	藤匠真	紺色の空を彩る花火咲く	盛岡市	木村碧唯	
日が暮れて花火が家族の顔照らす	奥州市	藤澤昂平	見上げると一面の白雪景色	盛岡市	小原唯加	

眺めよし山の頂風涼し	おぼの家静かな月と鳴く蛙	秋の空悔しさ胸にボール持つ	息あがりトマトみたいなほおの色	暗闇を友と歩く冬の街道	冬の朝あと三分と夢の中	夕方もみじの下をかけめぐる	梅雨明けにかすかに聞こえるセミの声	光差す人跡未踏の銀世界	風の群れ連れた花粉や我の敵	服着替え色鮮やかな山の木々	朝迎えうららかな日と澄んだ空	夕暮れの町に香るは秋刀魚かな	雪景色鼻赤くして帰途につく	音聞こえ家のベランダ花火見る	静まりて耳に響く梅雨の音	梅雨時に泣きだす雲の涙声	秋晴れの空まで届く芒の音	耳すまし虫の声きく暑い夏	流星や待ち待ち見えた白い筋	うつつしや一時の間の夕暮れ空	母の日に背中に隠すカーネーション	雪解けて土から顔だす春の色	そよ風とゆらりながれる花筏	雀の子道路を歩くよちよちと	
盛岡市 千葉忠遠	盛岡市 千葉崇多	盛岡市 高橋翔	盛岡市 佐藤晴紀	盛岡市 清川嵩悟	盛岡市 上館弘武	盛岡市 石川碧司	盛岡市 阿部隼人	盛岡市 山崎萌	盛岡市 水上桃果	盛岡市 三浦なのは	盛岡市 長崎めい	盛岡市 白椋七海	盛岡市 佐藤千優	盛岡市 佐藤さくら	盛岡市 佐藤愛來	盛岡市 佐々木清良	盛岡市 後藤結衣香	盛岡市 小泉遥	盛岡市 木村緋莉	盛岡市 北野花菜	盛岡市 小野寺夏望	盛岡市 上野咲麗	盛岡市 吉田武蔵	盛岡市 山口武流	
大晦日鐘の音聞かねば年こせぬ	夏の山たくさん響くセミの声	お別れの教室の中桜舞う	赤い頬桜とともに雨当たる	母親と半分とけた氷菓子	あじさいがしずくを誘い雨降らす	祖母と二人時を忘れる栗拾い	キラキラと夏の思い出花ひらく	雪どけに花咲きほこり春きたり	川の上風に逆らう鯉のぼり	部屋一人外で響くはせみのおと	天の川真の幸願いかな	風鈴の音らとともに夏がくる	部活語に流れる汗と青春の風	桜の花散りゆく姿に夏思う	桜散る短いのち終わりかな	桜色の花びらのように美しく	晴天の桃色きわだつ月の下	そばを食いテレビの中の除夜の鐘	そばを食いテレビの中の除夜の鐘	年越しのそばも食わずに夢の中	鶯の声聞こえけり春の音	残暑で台風到来恐怖心	秋の試合最後はサーブで終結	妹にたたき起こされクリスマス	入場で高まる緊張入学だ
盛岡市 石川陽人	盛岡市 阿部嘉輝	盛岡市 山田乃々佳	盛岡市 早坂幸花	盛岡市 箱石真奈	盛岡市 夏谷珈蓮	盛岡市 平萌々子	盛岡市 小平佳奈	盛岡市 金丸琴春	盛岡市 勝山心晴	盛岡市 小野寺憧媛	盛岡市 小田茜里	盛岡市 小笠原ももか	盛岡市 大清水優花	盛岡市 岩館咲良	盛岡市 稲次琴音	盛岡市 柳澤宙頼	盛岡市 渡辺快	盛岡市 若生友慧	盛岡市 山本優	盛岡市 盛内昂典	盛岡市 藤田一茂	盛岡市 平野隆介	盛岡市 平野玄青	盛岡市 原田優汰	

ハイチーズ桜の下の黄色棒	盛岡市	岡田卓士	墓参り祖母との思い出よみがえる	盛岡市	中島彩花
雨上がり車内から見たきれいな虹	盛岡市	菊地敏史	花火咲く火薬の香り夏がきた	盛岡市	増澤香乃
花粉症時早くたてとみなねがう	盛岡市	菊池湧斗	ホッホッホサントの笑顔が夢に見る	盛岡市	松浦愛
夕焼けに一瞬でたされすぐ消える	盛岡市	古前田晨	炎天下水飲み友の音聞こえ	盛岡市	松田和香奈
セミの音ははかなき命の賜物ぞ	盛岡市	駒木伶欧	なつかしいつららを食べて冬感じ	盛岡市	水野佳世
セミの音ははかなき時に赤い旗	盛岡市	近藤愛捷	なびく風大地につつまれ良い気分	宮古市	沢田柚歌
朝風呂で立ちのぼる湯気冬感じ	盛岡市	佐々木舵	ひまわりが風にふかれておはなし中	宮古市	沢田柚歌
秋田の海初めて行った秋の海	盛岡市	澤村海南都	星空が打ち上げ花火を包み込む	山田町	昆想一朗
あざやかに空をおどるよ蝶のまい	盛岡市	瀬川海里	はか参りマスク姿でまた来るね	山田町	昆想一朗
お年玉今年ももらえほっとする	盛岡市	田村惇道	光をあび己を照らすは朧月	葛巻町	坂待似子
テスト前睡魔と暑さに負ける夏	盛岡市	角掛樹	鹿の子や真っ赤な絨毯かけめぐる	葛巻町	熊谷美空
大掃除やってもやっても片付かず	盛岡市	角掛椿	燕の子辺り見回す大きな目	葛巻町	久保志歩
空をきり花が咲いた夏の夜	盛岡市	中村珠凧	つばめの子青空めがけ羽ひらく	葛巻町	渡邊優陽
クリスマスくつしたさげて夜ねむる	盛岡市	袈岩淑人	雨上がり部活帰りの空に虹	葛巻町	鈴木琴葉
お年玉もらう子ども笑みもれる	盛岡市	山形俊太	一年の季節を運ぶ渡り鳥	葛巻町	寺畑実桜
輝きを最後に見せる大花火	盛岡市	岸本美月	罎雲大漁となるきざしかな	葛巻町	寺畑実桜
紫陽花のはもん広がる露の音	盛岡市	小鯖華凜	紫陽花は雨が降っても笑顔咲く	葛巻町	下天广楓
紫陽花と雨のしたたる季節かな	盛岡市	小田島美紅	意固地張るスイカよどちらの手に	葛巻町	榎木茉莉亜
突然の夕立歪む影ぼうし	盛岡市	小森万愛	雀の子みんな口開け母困る	葛巻町	蜂須賀夕依
網の中通った風が夏告げる	盛岡市	鈴木和子	あめんぼう水の上での鬼ごっこ	葛巻町	山村華杏
目を細め夕焼け光る虫のかけ	盛岡市	高橋伶	西瓜割り左へ右へ酔っ払い	葛巻町	星野智哉
見えずとも夏を感じる花火の音	盛岡市	立花里緒	雀の子母の働き見届ける	葛巻町	岩澤玲王
夏の朝めざましがわりにセミの声	盛岡市	玉川乃彩	冬の屋根氷柱が君をにらんでる	葛巻町	岩澤玲王
涼風とともに吹きこむ鳥の声	盛岡市	玉澤遥	帰り道夏の夕焼け光ってる	葛巻町	志田梨佐子
その金魚ふりまわされて目がバツテン	盛岡市	千葉雅美	夏休みテストあるから眠れない	葛巻町	デンバー・ウツ ドハーン

屋根の下きらきら光る氷の齒	葛卷町	寺田優心	誰よりも夏を満喫風鈴は	葛卷町	向川原杏南
朝顔と一緒に目覚める雨の日も	葛卷町	野里陽向	夕焼けは明日の私にエールかな	葛卷町	星野真奈
空を見るえきを見つけて親つばめ	葛卷町	上家爽雅	部活終え幸せ感じる扇風機	葛卷町	星野真奈
スイカ割りハチマキ巻いて力出す	葛卷町	見澤莉玖	ブランコで幼き頃を思い出す	葛卷町	鈴木愛葉
白鳥が空に矢印作ってる	葛卷町	服部蒼来	海月見て心も体もゆらゆらと	葛卷町	鈴木愛葉
隠れ家でこそそそしてる雀の子	葛卷町	服部蒼来	休みの日登山で歩くけもの道	葛卷町	上打内大駕
風鈴の音色と共に空見上げ	葛卷町	遠藤朝陽	川音や聖なる夜に蛍飛ぶ	葛卷町	近藤美桜
西瓜割り一人で割るとブーイング	葛卷町	上川原匠哉	暗い部屋独り占めする天の川	葛卷町	山口瑛大
牧開き山上げされた牛の群れ	葛卷町	西舘亮太	暗い部屋窓から眺める星月夜	葛卷町	山口瑛大
夏休み部活日本語頑張るぞ	葛卷町	アインゼル・ ウツド・ハン	梅雨明けの湿った土でランニング	葛卷町	向川原煌
稲光子らを脅かし何が得?	葛卷町	大石光	大空を高く飛び交う落ち葉かな	葛卷町	見澤陽翔
日の光霧氷にあたり宝石に	葛卷町	近藤あかね	蛭蝶青を隠して消えにけり	葛卷町	熊谷美波
夏の海光照らされ透き通る	葛卷町	山崎愛佳	涼風に背中を押されサーブ打つ	葛卷町	八幡遥奈
太陽を探す向日葵を向く	葛卷町	田澤和珠	遠ざかる夜の自転車蛙の音(ね)	葛卷町	森彩純
春近し思い膨らみ空見上げ	葛卷町	緑川葵巳	七夕や短冊つるす子供たち	葛卷町	嵯峨菜央
鶯やいい啼き声で啼いてくれ	葛卷町	小向大翔	太鼓の音(ね)外で聞こえる祭りかな	葛卷町	三好莉乃
蝶の舞う花壇で遊ぶ笑い声	葛卷町	八木七海	七夕やお願い事が叶うかな	葛卷町	樋ノ口美里
毎晩の虫の歌声うるさいな	葛卷町	西村虹哉	空いっぱい夕焼け染まる帰り道	葛卷町	六角聖弥
初雪の後の山々美しい	葛卷町	山口創進	大空をうめつくすほど赤蜻蛉	葛卷町	本地美咲
氷水部活終わりに友達と	葛卷町	野里悠月	夜空には皆が見上げる星月夜	葛卷町	近藤優丞
桜花散りゆくときの悲しさや	葛卷町	端坂愛梨	向日葵は心も照らす太陽だ	葛卷町	大久保匠悟
蜘蛛の巣に光る雨の美しさ	葛卷町	遠藤圭心	放課後のソフトテニスで汗だくだ	葛卷町	ジュリエット・ ウツド・ハン
立葵すんと立つ姿モデルかな	葛卷町	折本莉奈	夏休み部活ないから自粛かな	葛卷町	遠藤千哉
袖山の牛たち元氣牧開き	葛卷町	向川原大和	夏休み出かけたけどコロナ禍だ	葛卷町	大上優空
空泳ぐ高く上がった鯉のぼり	葛卷町	松下尚憲	おね残る思い出の友盛岡へ	盛岡市	西舘心結

元気よぶさんさまつりがこいしいな	盛岡市	田高愛葉	岩手山春のおとずれうかぶわし	盛岡市	村松咲奈
夏野菜食べてコロナをはね返せ	盛岡市	田高愛葉	大暑の日なすよ出てこい雲の下	盛岡市	佐藤怜優
せんぷうきあつくてつけるさむくなる	盛岡市	向井田悠生	教室の窓から見える岩手山	盛岡市	高橋結夢
紫陽花に雲が涙し共に泣く	盛岡市	阿部玲菜	竹ばやしたけのこの子がかお出すよ	盛岡市	及川莉瑚
水たまりしずくがおちてやがて凧	盛岡市	阿部玲菜	遊んでるぼくらを見つめる岩手山	盛岡市	三好航太郎
青空のトマトの水やり汗キラリ	盛岡市	古川芽生	わんこそばはいじゃんじゃんと食べれたよ	盛岡市	益子奏太郎
さみしいな落ちてまっくら線香花火	盛岡市	古川芽生	スイカ食べだれが遠くへふき出すか	盛岡市	稲葉美悠
あさがおがぱっとひらいてあさになる	北上市	高橋明莉	さんさ舞う笑顔かがやく夏の日よ	盛岡市	神崎結衣
かきごおりひやりつめたいいちごあじ	北上市	高橋明莉	南部鉄器しあわせはこぶふうりんの音	盛岡市	坂田暖真
自由だなほにやりとゆらり水あそび	矢巾町	成田縁	水田にさかさきにうつる岩手山	盛岡市	中澤友紀子
じじの家ドキドキさわったセミのぬけがら	矢巾町	成田縁	遠くから聞こえる太鼓におねおどる	盛岡市	中澤ほの花
天の川あなたに逢えるその日まで	盛岡市	吉田啓祐	笛の音と太鼓が響く夏の夜	盛岡市	武蔵竣
天の川織姫彦星会えたかな	盛岡市	吉田啓祐	サッコラの声なき空に幸願う	盛岡市	八幡一颯
来年も君と見たいんだこの花火	盛岡市	吉田啓悟	五月晴れどかんとそびえる岩手山	盛岡市	加藤紫月
この夏に力を注いだ球児たち	盛岡市	吉田啓悟	大空のトンぼながめて空の旅	盛岡市	中村朱里
おかあさんとすいかわりしたいなあした	葛巻町	下上衣知花	あじさいにかえるが二ひきかわいいな	盛岡市	日向端理葉
ひまわりのおせわしたいなぼくひとり	葛巻町	前端空翔	夕ぐれに太鼓響かず人の声	盛岡市	宮川結菜
プールあそびママといっしょにやりたいな	葛巻町	村上杏那	耳すます初夏を感じるたいこの音	盛岡市	山本唯花
あじさいのにおいがすきあおいはな	葛巻町	下屋敷空	ひゃっこいなグラスにほった夏のお茶	盛岡市	天沼朋緒
ダムづくりみずをはこんでどろあそび	葛巻町	澤遥斗	夏の日に赤く輝くへびいちご	盛岡市	土生翔梧
あじさいのしろいおはないにおい	葛巻町	鹿渡喜十郎	雨雲をかえるがよぶや夏の雨	盛岡市	滝村宗太郎
にちようびプールあそびたのしかった	葛巻町	川下烈	夏祭りさんさ踊りが蝶のよう	盛岡市	芥川千鶴
ほいくえんのどろんこびしょぬれたのしいな	葛巻町	入月咲歩	何杯も盛岡の味わんこそば	盛岡市	成田ゆう
おやつのねメロンアイスがおいしいです	葛巻町	中崎心央成	セキレイの鳴き声おどる盛岡市	盛岡市	金山航平
わんこそばふたを持つけどふたできず	盛岡市	浅沼結	春桜木々を見つめて花がちる	盛岡市	小山桂寿

ハイチーズ夕顔瀬橋と岩手山	馬歩くチリンチリンと華やかに	夏の風ボールとともに走りゆく	水でっぼう雲を追いかけ夏の空	水無月に空に広がる星の海	岩手山春へ飛んでくたかと花	夏の夜水辺で歌う蛍たち	霜柱ふめばサクサクいい音だ	夏祭り金魚もいっしょにおどりだす	風車春風たちとおどってる	ずずずとじゃじゃめんすっておいしいな	葉におちるしずくを見つめ梅雨入りだ	雨上がり木々のしずくが宝石に	夏深しさんさ踊りの宙の舞	寒明けて山は一気に笑い出す	夏の夜にさんさ踊りて幸呼来と	短夜のさんさ踊りの美しさ	今までの努力が実る色づく田	町通る馬っこ見ると夏来たり	雪溶けてワシも飛び立つ岩手山	夜想う窓からの風夏近し	春風に白いこびとよどこで咲く	蝶や蜂自然豊かな盛岡市	桜の木花びら落ちる花の雨	風がふき石わり桜舞い散った
盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市
日當かなめ	石黒瑠花	高橋花野	斗ヶ澤雄梧	松井陽斗	三浦花音	谷村優妃	金子凌大	菅原美和	真継朋佳	田澤佳歩	遠藤心葉	田家玲奈	土田桃々花	森川瑠菜	高橋美桜	松浦翔香	藤村歩音	青木柊太	山崎真太郎	根城心菜	有北知充	赤津皓介	堀野優陽	中森優奈
涼風が風鈴ならす夏の夜	夏の夜さんさの花をさかせたよ	楽しみはさんさおどりや夏祭り	秋になりさけがのぼるよ中津川	岩手山春先になり驚が飛ぶ	若草のかおりただよう春の風	チャグチャグとたてがみゆらす夏の風	かくれんぼ洞のクワガタどこでしょう	チリンチリン風鈴涼しや心は緩む	演奏会虫の音響き眠れない	星月夜紅葉の下に君と二人	楓の葉水面に映る真紅の美	変わらない仲間との日々十五の夏	大会で青空の下白球追う	暑い夏心が燃える甲子園	目を下に向ければ道路は桜色	しゅっぽっぽ自動車の下にはたんぽぽ	猛暑日にステイホームでゲームする	つかめない思いを乗せる逃げ水よ	風鈴が風とお話リンリンと	星月夜稲光する穂を照らしてる	夏の空希望の光で光合成	春来ると杉花粉が俺を襲う	除夜の鐘挨拶交わしそばすする	河川敷輝き始める桜の木
盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	盛岡市	奥州市	奥州市	奥州市	奥州市	奥州市	奥州市	奥州市	奥州市	奥州市	奥州市	奥州市	奥州市	奥州市	奥州市	奥州市	奥州市	奥州市	盛岡市
竹内結羽	大畑心春	小林優月	橋本 紡	小室真希	瀧磯大翔	菅野咲杏	宍戸 海	及川彩花	及川聖奈	渡辺葉菜	及川璃杏	遠藤真奈	及川莉久	和川彰真	菊池将矢	佐藤優登	佐藤優太	小澤千星	山崎秀規	小竹愛翔	及川諒也	山田架琉	佐藤勇誠	佐藤瞭太



紫陽花の雫に映る青い空	大槌町	倉本愛花	もう少しつるんといけるわんこそば	盛岡市	松原永和
走る汗さんさ踊りや夏の夕	大槌町	藤社雅乃	暑いなか悠々とまうとんぼかな	奥州市	長澤和希
中津川集まる命すすきの音	盛岡市	松原理桜	四つ子と三つ子えだまめの山にちらほらと	奥州市	長澤和希
うつくしや石割桜歴史の木	盛岡市	松原理桜	ミンミンと元氣いっぱいセミの声	盛岡市	高橋耕惺
水面には心を照らす高松か	盛岡市	伊藤恒貴	夏休み行事ないから何しよう	盛岡市	高橋耕惺
炎天下親のせいなの暑さなの	盛岡市	伊藤恒貴	アリたちめぼくのおかしにピラミッド	盛岡市	星川 明
サイダー水飲むさわやかなつげしき	盛岡市	笹原隆央	夕暮れの周りにこだますセミの声	盛岡市	舘澤恵人
お気に入りのじんべいミシン目広がり	盛岡市	笹原隆央	オニヤンマ羽化の瞬間釘付けだ	盛岡市	舘澤恵人
きちゃだめよ会えない祖母の涙声	北上市	伊藤颯大	石割の桜の下でひとときを	紫波町	漆沢咲希
声援と多すぎる汗と初得点	北上市	伊藤颯大	温泉で見渡すかぎりの御所湖かな	紫波町	漆沢咲希
指文字は便利な動き海月かな	埼玉県	甲野謙治	天の川もろくず川の上にある	盛岡市	藤井ゆい
手話など無意味な事や油蟬	埼玉県	豊 島 縁	七夕でねがいがかなうとたのしいな	盛岡市	藤井ゆいと
暑い夏もう始まるだろう学校	埼玉県	小埜ゆうな	歌声か月夜の合唱虫の声	盛岡市	中谷明寛
指文字の相手が大事立夏かな	埼玉県	菅井陽生	秋祭り山車の祭典晴れ舞台	盛岡市	中谷明寛
夏の山らくらくな手話世界でも	埼玉県	菊池智喜	春の花風にゆられておどってる	盛岡市	ゆっぴー
私たちろう学校が楽しいよ	埼玉県	野呂宥依那	七夕はねがいがかなうゆめの日だ	盛岡市	ゆっぴー
聴人は手話を覚える夏の空	埼玉県	桜田咲良	岩洞湖暗闇めぐる夏の空	埼玉県	菅井陽生
にぎやかだろう学校は夏木立	埼玉県	茂木七海	天の川 銀河鉄道重力さ	埼玉県	菊池智喜
なつかしや手話のストーリー夏	埼玉県	佐藤絵梨花	五月闇探し求めて光原社	埼玉県	豊 島 縁
指文字やそれから始め大文字	埼玉県	黒崎琉之介	あいの風盛岡城が見えにけり	埼玉県	片山仁一朗
ちようちようさんひらひらとんでどこいくの	盛岡市	川村優香子	流れてく 銀河鉄道夏木立	埼玉県	茂木七海
あさいちでかぶとむしうりびつくりだ	盛岡市	川村優香子	星踊る 銀河鉄道夏の月	埼玉県	甲野謙治
朝早く父に線香墓まいり	盛岡市	川村康祐	中津川見える魚の赤れんが	埼玉県	佐藤絵梨花
朝市のメロンお供え父さんへ	盛岡市	川村康祐	天の川見上げる私ゆめねがい	盛岡市	熊谷夏椿
人々が今こそ一岩対コロナ	盛岡市	松原永和	青緑からくれない白岩手山	盛岡市	熊谷夏椿

星の夜はほのかに光る螢かな  
 先人の想いをつなげ石垣に  
 なびく風大地の幸せ岩手山  
 学び舎の窓からのぞく岩手山  
 夏野菜御日様くれた宝山  
 夏の海貝をさらって世界旅行  
 ブルーベリーくきがみどりはまだすっぱい  
 「良い当り」暑さ忘れて駆け出して  
 マルカンのソフトみたいなお雲三つ  
 青空に夕だち教える黒い雲

盛岡市 盛岡市 青森県 盛岡市 盛岡市 盛岡市 宮古市 宮古市 紫波町 紫波町  
 北館沙菜 北館沙菜 寺沢一真 保科光歩 保科光歩 保科光歩 沢田萌歌 沢田萌歌 野村知沙 野村知沙

## 盛岡市のシンボル (市の花・市の木・市の鳥)



### 盛岡市の花『カキツバタ』

さわやかな初夏(6月中旬頃)に紫色の花を咲かせます。古くから市内の各地に自生しており、山岸に群生しているカキツバタは、県の天然記念物に指定されています。アヤメ科。多年草。



### 盛岡市の木『カツラ』

山地に自生する落葉樹で、高さ30メートル近い大木となります。枝が垂れる「シダレカツラ」はこの地方特有の変種で、肴町と大ヶ生の瀧源寺、門のシダレカツラは国の天然記念物に指定されています。カツラ科。



### 盛岡市の鳥『セキレイ』

市街地を流れる中津川周辺などでよく見られる濃淡のコントラストが美しい鳥です。オスとメスの仲がよく、水をたたくように尾を上下させて飛ぶ姿はとてもスマートです。セキレイ科。

【Grand Prize】大会賞 マイケル・ディラン・ウェルチ 選

Engin Gülez トルコ

railway station  
quietly becoming a part  
of her silence

鉄道の駅が  
静かに彼女の沈黙の  
一部になる

【Second Prize】特選 マイケル・ディラン・ウェルチ 選

Beth A. Skala カナダ

baking day  
grandma kneads and shapes  
another story

ベーキングデー(パンを焼く日)  
おばあちゃんはこねて形を整えます  
別の話

Ed Bremson アメリカ

Covidwinter . .  
her one-breath poem  
in two breaths

コロナの冬—  
彼女の一息の詩を  
二呼吸で

【Second Prize】特選 木内徹 選

Benjamin Blaesi ドイツ

a murmuration  
of starlings hurries south  
I cut the last rose

ムクドリが南に急ぐ  
つぶやき  
私は最後のバラを切った

Veronika Zora Novak カナダ

cupped hands . .  
I drink the music  
of moonlight

カップ状にした手—  
私は月光の  
音楽を飲む

Patricia M Campbell アメリカ

hospital garden  
he quickly lowers his mask  
and smells the roses

病院の庭  
彼はすぐにマスクを下げ  
バラの香りを嗅ぐ

【Honourable Mentions】入選

Nikola Duretic クロアチア

A toad croaking  
as though he grasped  
the mystery of life

ヒキガエルの鳴き声  
彼が人生の謎を  
握ったかのように

Valorie Broadhurst Woerdehoff アメリカ

after the argument  
your absence  
black moon

議論の後  
あなたの不在  
黒い月

Cyndi Lloyd アメリカ

apple blossoms fall . .  
an edge of the blanket  
in her baby's mouth

リンゴの花が散る—  
毛布の端が  
赤ちゃんの口の中に

Engin Gülez トルコ

daughter's deathbed  
knitting what's left  
of the light

娘の死の床  
光のなかから  
残ったものを編む

Al W Gallia ポーランド

first raindrop  
the cricket eases  
under a leaf

最初の雨滴  
蟋蟀が葉の下で  
くつろぐ

INDRA NEIL MEKALA インド

gaining size  
as it rolls . .  
spring dew

大きさを増す  
春の露が  
転がるにつれ—

【Honourable Mentions】入選

Radostina Dragostinova ブルガリア

old church  
in the shadow beside the door  
overblown dandelion

古い教会  
ドアの横にある影のなかに  
吹き飛ばされたタンポポ

Jeff Hoagland アメリカ

Queen Anne's lace  
a hoverfly  
without wings

黒人参  
翼のない  
ハナアブ

Lyle Rumpel カナダ

starlit  
coyote calls rise  
from the snowpack

星空  
コヨーテの鳴き声上がる  
雪塊氷原から

Tomislav Maretić トルコ

too late a visit—  
the pond lilies  
closed

訪問には遅すぎる—  
池のユリが  
閉じている

Lyle Rumpel カナダ

window frost  
stars unfurl  
in the nursery

窓の霜  
星が広がる  
保育園に

Michael H. Lester アメリカ

yellow moth—  
one last flutter before  
the bird swallows

黄色い蛾—  
鳥が飲み込む前の  
最後のはばたき

令和二年十一月発行



